

飯山市における障害者手帳所持児者の生活活動と福祉サービス利用の実態

Survey on difficulties in ADL and welfare services utilization among children and persons with disabilities living in Iiyama

北村 弥生^{1,2*} 岩谷 力¹ 今橋 久美子³
飛松 好子³ 外里 富佐江¹ 北澤 一樹¹

¹ 長野保健医療大学

² 前 国立障害者リハビリテーションセンター

³ 国立障害者リハビリテーションセンター

要旨：本稿では、長野県飯山市で行ったアンケート調査の結果を報告する。この調査は、次期「全国在宅障害児・者等実態調査」（厚生労働省）の調査対象、方法、調査項目設定上の課題を明らかにすることと飯山市の障害者福祉施策の立案に役立てることを目的に行った。飯山市に住民票がある障害者手帳所持者 1,221 名（身体 867 名、療育 154 名、精神 200 名）に無記名調査票を郵送し、589 名（48.2%）から回答を得た。ここでは、全 51 問について 3 障害別に回答を集計した。本調査の結果を平成 28 年「全国在宅障害児・者等実態調査」と比較すると、居住形態、障害福祉サービス利用率、介護保険サービス利用率等には差があった。この結果から、自治体ごとに障害者手帳所持者の生活実態に合わせた障害福祉施策を立案することの意義が示唆された。さらに、障害種別と年齢階層による差異を明らかにすることは、今後の課題である。

キーワード：障害者統計、全国調査

ABSTRACT: This article shows the results of a survey on children and persons with disabilities conducted in Iiyama City, Nagano Prefecture, Japan. This survey was designed not only as the pre-survey for the National Survey on Children and Persons with Disabilities by the Ministry of Health, Labour and Welfare to identify adequate subjects, methods and questionnaires, but also to contribute to designing disability welfare policy in Iiyama City. The Department of Disability Welfare of Iiyama City sent questionnaires to 1,221 residents with disabilities including 867 persons with physical disabilities, 154 persons of intellectual disabilities and 200 persons with mental illness, all of them were disability card holders. The results of 51 questions from 589 respondents (collection rate of 48.2%) were categorized according to three types of disabilities. Housing types, disability welfare services usage rates, and elderly persons' services usage rates differed between the results of this survey and those of the National Survey on Children and Persons with Disabilities of 2016. This result suggests that each city needs a different disability welfare policy according to the life styles of their residents with disabilities. Further investigations were required to identify the differences in results between detailed types of disabilities and age groups.

Key words: disability statistics, national survey

1. 研究目的

本研究では、自治体の障害福祉サービスに資するために、自治体における 3 障害者手帳所持

者の実態を示す基礎資料を作成することを目的とした。そのための調査項目として、厚生労働省が 5 年ごとに実施している全国在宅障害児・者等実態調査（以下、全国調査）の調査票¹⁾と「障害福祉計画策定に係る実態調査及び PDCA サイクルに関するマニュアル（以下、PDCA 調査）」の調査票²⁾、さらに国際連合（以下、国連）の国

*e-mail: ykita3100@gmail.com

(受付日：2021 年 12 月 13 日／受理日：2022 年 4 月 28 日)

際障害統計のワシントン・グループが作成した指標を参考にした。全国調査は平成 23 年に開始され、5 年ごとに行われている。その調査項目は、昭和 25 年に開始された全国身体障害児者実態調査の調査項目を基に全国知的障害児者基礎調査の調査項目を追加し、障害者手帳所持者だけにとどまらず障害基本法が定義する広義の障害を対象にすることと障害の社会モデルに基づくことを目指して設計された。一方、PDCA 調査は自治体における障害福祉計画策定を主眼に作成されているが、全国調査の調査票と重複する部分も多い。そこで、全国調査の調査項目を使うことにより自治体の特性を知るとともに、PDCA 調査の調査項目から障害福祉計画にどのような貢献ができるかを考察した。

2. 研究方法

長野県飯山市に住民票のある障害者手帳所持者 1,221 名（身体 867 名、療育 154 名、精神 200 名）を対象とした。飯山市役所障害福祉課から郵送で調査票を送付し、返信用封筒で同課に無記名で回収し、589 名（6～100 歳）から回答を得た（回収率 48.2%）。飯山市は長野県北部の豪雪地帯に位置し、調査が行われた令和 2 年 11 月現在人口 19,383 人、令和 2 年 4 月 1 日現在高齢化率 38.4%であった。

調査票は、過去の全国調査の設問に、PDCA 調査から就労、災害時避難、差別と偏見等に関する設問を追加して作成した。また、余暇と運動については別の全国調査の設問を使用して、障害の有無による実態の違いを明らかにすることを目指した。さらに、国連の国際障害統計のワシントン・グループが作成した短い質問群（WG-SS）と不安と気分の落ち込みに関する頻度と程度に関する質問群を追加した。回収された調査票は飯山市において電子化し、研究者は電子化されたデータを得て障害者手帳の種別により回答を集計した。比率は原則として、回答者数を母数とした。複数回答がある設問では、比率が 100%を超えることもあった。

3. 倫理的配慮

本研究は、長野保健医療大学倫理審査委員会から「次期全国在宅障害児・者等実態調査の検討のためのプレ調査」（責任者：岩谷力、共同研究者：外里富佐江、北澤一樹、飛松好子、北村弥生、今橋久美子、清野絵、鈴木靖史）に対して承認を得て実施した（承認番号 2020-3）。また、研究資金は、令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）「現状の障害認定基準の課題の整理ならびに次期全国在宅障害児・者等実態調査の検討のための調査研究（20GC2001）」の研究費配分を得た。

4. 調査票の発送と回収状況

調査票の発送と回収状況を表 1 に記載する。

調査票の配布と回収について、障害種別と等級を上表に示した。回答者の障害種別での回収人数（回収率）は多い順に、肢体不自由（下肢）155 人（26.7%）、療育手帳 92 人（15.8%）、精神保健福祉手帳 85 人（14.6%）、心臓機能障害 82 人（14.1%）であった。

5. 3 障害別の集計

5-1. 回答者の所持手帳

回答者 589 名のうち、身体障害者手帳所持者は 423 人（身体のみ 407 人）、療育手帳所持者は 92 人（療育のみ 75 人）、精神障害者保健福祉手帳（以下、精神保健手帳）所持者は 85 人（精神のみ 80 人）、2 種類の手帳所持者は 19 人であった（表 2）。

5-2. 問 1～問 51 についての 3 障害別集計

設問ごとに 3 障害別の回答結果を集計した。集計から重複障害者は除き、身体障害者手帳所持者 407 人、療育手帳所持者 75 人、精神保健手帳所持者 80 人であった。

問 1-1. 調査票の記入者

調査票を障害者手帳所持者本人が記入したのは全体で 339 人（57.6%）であった。内部障害者と精神保健手帳所持者では約 70%で、視覚障

表1 調査票の発送と回収状況

		全体	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	不明・記載なし
身体障害	発送	867	191	108	180	218	80	66	21	3
	回収	423	127	54	69	77	25	23		48
	回収率	49%	66%	50%	38%	35%	31%	35%	-	
視覚障害	発送	58	9	26	3	5	10	5	0	
	回収	28	5	8	2	6	4	3		
	回収率	48%	56%	31%	67%	120%	40%	60%		
聴覚障害	発送	58	1	13	8	11	0	25	0	
	回収	24	0	5	2	4	0	13	0	
	回収率	41%	0%	38%	25%	36%	-	52%	-	
音声・言語・そしゃく機能障害	発送	16	0	0	10	6	0	0	0	
	回収	9			5	4				
	回収率	56%			50%	67%				
上肢 (機能+切断)	発送	173	6	39	42	30	24	11	21	
	回収	74	11	25	13	15	4	3	3	
	回収率	43%	183%	64%	31%	50%	17%	27%	-	
下肢 (機能+切断+移動))	発送	254	1	8	65	119	36	25	0	
	回収	155	7	24	46	46	19	11	2	
	回収率	61%	700%	300%	71%	39%	53%	44%	-	
体幹	発送	54	10	15	19	0	10	0		
	回収	28	9	6	9		4			
	回収率	52%	90%	40%	47%		40%			
心臓	発送	148	115	0	14	19	0	0		
	回収	82	64		11	7				
	回収率	55%	56%		79%	37%				
呼吸	発送	22	4	0	14	4	0	0		
	回収	16	5		9	2				
	回収率	73%	125%		64%	50%				
腎臓	発送	44	43	0	1	0	0	0		
	回収	22	22							
	回収率	50%	51%		0%					
膀胱直腸	発送	27	0	0	3	24	0	0		
	回収	14			1	13				
	回収率	52%			33%	54%				
小腸	発送	1	1	0	0	0	0	0		
	回収	6	2			4				
	回収率	600%	200%							
ヒト免疫不全 ウイルスによる 免疫機能障害	発送									
	回収	1			1					
	回収率									
肝機能	発送	2	1	0	1	0	0	0		
	回収	2	1		1					
	回収率	100%	100%		100%					
				A1	A2	B1	B2			不明・記載なし
療育	発送	154	36		58	60				
	回収	92	21	8	19	32				12
	回収率	59.7%	58%		33%	53%				
				1級	2級	3級				不明・記載なし
精神	発送	200	81	106	13					
	回収	85	41	35	4				5	
	回収率	42.5%	51%	33%	31%					

害者、肢体不自由者、療育手帳所持者では30～40%であった(表3)。

問1-2. 本人以外の記入者

本人以外の記入者は、親が39.9%、親以外の家族が39.4%であった(表4)。

問2. 回答者の年齢

回答者の平均年齢は身体障害者手帳所持者が74.7歳(標準偏差13.5歳)、療育手帳所持者35.0歳(同20.9歳)、精神保健手帳所持者52.0歳(同17.3歳)、年齢幅は6歳から100歳であった(表5、6)。

回答者の年齢を年齢階層別に集計した結果、80歳代が最多、9割以上は60歳以上であった。60歳以上の高齢者は全体で545人中346人(63.5%)、身体障害者手帳所持者399人中353人(88.5%)、療育手帳所持者10人(14.3%)、精神保健手帳

所持者26人(34.2%)であった。年代別回答者の割合が最も高かったのは、身体障害者手帳所持者では80-89歳(32.8%)、療育手帳所持者では30-39歳(22.9%)、精神保健手帳所持者では50-59歳(25.0%)であった。

問3. 回答者の性別

身体障害者手帳所持者399人、療育手帳所持者70人、精神保健手帳所持者76人が回答した。身体、療育、精神のいずれの手帳保持者でも、回答者の性別は男女ほぼ同数であった。「その他」1名、「答えたくない」2名であった(表7)。

問4. 住居の種類

いずれの手帳所持者においても、持ち家に住んでいる人の割合が70%以上であった。精神保健手帳所持者ではグループホームの比率が高かった(13人11.5%)(表8)。

問5. 同居者と同居家族数

回答者555人のうち、独居者は61人(11.0%)(身体障害者手帳所持者48人(11.9%)、療育手帳所持者1人(1.4%)、精神保健手帳所持者12人(15.0%))であった。同居率が高かった家族は、身体障害者手帳所持者では配偶者(53.7%)と子ども(46.5%)、療育手帳所持者では親(83.6%)と同胞(41.1%)、精神保健手帳所持者では親(41.3%)、配偶者(26.3%)、同胞(25.0%)であった(表9)。

同居家族数は、1人が311人(56.0%)、2人が147人(26.5%)、3人以上が36人(6.5%)であった(表10)。

表2 回答者の所持手帳

	人数	%
身体障害者手帳所持者	423	72.8
身体のみ	407	70.1
身体と療育	14	2.4
身体と精神	2	0.3
療育手帳所持者	92	15.8
療育のみ	75	12.9
療育と身体	14	2.4
療育と精神	3	0.5
精神保健手帳所持者	85	14.6
精神のみ	80	13.8
精神と身体	2	0.3
精神と療育	3	0.5
有効回答数	581	100.0
記載なし	8	
回答者総数	589	

表3 調査票の記入者

記入方法	総数		精神保健福祉手帳のみ所持		療育手帳のみ所持		身体障害者手帳所持者									
							内部障害を除く		視覚障害のみ		聴覚障害のみ		肢体不自由のみ		内部障害のみ	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
本人	339	57.6	59	69.4	27	34.2	152	56.1	8	33.3	10	52.6	17	37.8	98	70.0
代筆	95	16.1	10	11.8	16	20.3	53	19.6	8	33.3	3	15.8	14	31.1	14	10.0
代理	89	15.1	5	5.9	15	19.0	46	17.0	6	25.0	3	15.8	11	24.4	8	5.7
合計	523	88.8	74	87.1	58	73.4	251	92.6	22	91.7	16	84.2	42	93.3	120	85.7
複数回答	4	0.7	0	0.0	2	2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.7
無回答	62	10.5	11	12.9	18	22.8	20	7.4	1	4.2	3	15.8	3	6.7	19	13.6
合計	589	100	85	100.0	79	100.0	271	100.0	24	100.0	19	100.0	45	100.0	140	100.0

表4 本人以外の記入者

記入者	人数	%
親	75	39.9
親以外の家族	74	39.4
その他	33	17.6
小計	182	96.8
欠損値	6	3.2
合計	188	100.0

表5 回答者の年齢（歳）

所持手帳障害種別	平均年齢	標準偏差	中央値	範囲
身体障害者手帳	74.7	13.5	77.0	7-99
療育手帳	35.0	20.9	31.0	6-100
精神保健手帳	52.0	17.3	52.5	11-86

表6 回答者の年齢（年齢階層別）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
0-9 歳	1	0.3	1	1.4	0	0.0	2	0.4
10-17 歳	1	0.3	0	0.0	1	1.3	0	0.0
18-19 歳	0	0.0	5	7.1	0	0.0	5	0.9
20-29 歳	1	0.3	11	15.7	8	10.5	20	3.7
30-39 歳	4	1.0	16	22.9	10	13.2	30	5.5
40-49 歳	8	2.0	6	8.6	11	14.5	25	4.6
50-59 歳	31	7.8	6	8.6	19	25.0	56	10.3
60-64 歳	33	8.3	2	2.9	8	10.5	43	7.9
65-69 歳	50	12.5	1	1.4	6	7.9	57	10.5
70-74 歳	50	12.5	3	4.3	5	6.6	58	10.6
75-79 歳	50	12.5	1	1.4	1	1.3	52	9.5
80-89 歳	131	32.8	2	2.9	6	7.9	139	25.5
90 歳以上	39	9.8	1	1.4	0	0.0	40	7.3
合計	399	100.0	70	100.0	76	100.0	545	100.0

表7 回答者の性別

身体			療育						精神								
男		女		合計		男		女		合計		男		女		合計	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
197	49.5	201	50.5	398	100.0	36	52.2	33	47.8	69	100.0	43	56.6	33	43.4	76	100.0

表8 住居の種類

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
持ち家	362	89.4	53	73.6	56	71.8	471	84.9
賃貸住宅	13	3.2	4	5.6	6	7.7	23	4.1
社宅	0	0.0	0	0.0	1	1.3	1	0.2
公営住宅	19	4.7	6	8.3	6	7.7	31	5.6
グループホーム等	3	0.7	1	1.4	9	11.5	13	2.3
施設	4	1.0	2	2.8	0	0.0	6	1.1
その他	4	1.0	6	8.3	0	0.0	10	1.8
合計	405	100.0	72	100.0	78	100.0	555	100.0

問6. 日常生活活動の自立度

全体では、14種類の日常生活活動について、「一人でできる」の回答者は最も低い場合で59.3%であった。「一人でできる」割合が最も高

かった活動は、「排泄」(86.5%)、次いで「食事」(85.6%)であった。一方、最も低かった活動は「買い物」(59.3%)について「食事の支度・後片付け」(59.6%)、「洗濯」(60.9%)、「身の回りの掃

表 9 同居者

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
配偶者 (夫や妻)	216	53.7	6	8.2	21	26.3	243	43.8
親	49	12.2	61	83.6	33	41.3	143	25.8
子	187	46.5	6	8.2	12	15.0	205	36.9
同胞	20	5.0	30	41.1	20	25.0	70	12.6
その他	25	6.2	14	19.2	14	17.5	53	9.5
独居	48	11.9	1	1.4	12	15.0	61	11.0
同居者数累計	545		118		112		775	
回答者数	402	100.0	73	100.0	80	100.0	555	100.0

表 10 同居家族数

同居家族数	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
0	48	11.9	1	1.4	12	15.0	61	11.0
1	230	57.2	36	49.3	45	56.3	311	56.0
2	105	26.1	28	38.4	14	17.5	147	26.5
3	19	4.7	7	9.6	9	11.3	35	6.3
4	0	0.0	1	1.4	0	0.0	1	0.2
合計	402	100.0	73	100.0	80	100.0	555	100.0

除・整理」(61.6%)であった。「全くできない」と「経験・機会がない」を加えた割合が最も高かった活動は「洗濯」(23.8%)、最も低かった活動は「食事」(3.0%)であった。

14項目全てに回答した498人(身体361人、療育64人、精神93人)で、そのうち全ての項目に「1人でできる」と回答したのは241人(48.4%)、全ての項目「できない」あるいは「機会経験がない」と回答したのは5人(1%)(身体4人、精神1人)であった。

問7. 日常生活での苦勞の程度(国連障害統計ワシントン・グループによる短い質問群(WG-SS))

国連の国際障害統計ワシントン・グループが提案している障害の国際比較のための質問群(WG-SS)への回答結果を示した(表12)。WG-SSは、2006年にウガンダのカンパラで開催されたワシントン・グループの第6回会議において支持され、「視覚」「聴覚」「歩行」「認知」「セルフケア」「コミュニケーション」に機能制限があるかを捉える設問として、85か国(2020年現在)で使用されている。

「視覚・聴覚障害」に関する質問への「苦勞はない」の3障害における回答率は、54.3~72.0%

であった。「移動」に関する質問への「苦勞はない」の回答率は、身体障害者手帳所持者で低く(26.3%)、療育手帳、精神保健手帳所持者では約60%であった。通常言語によるコミュニケーションに関する質問では、「苦勞はない」の回答率は療育手帳所持者で低かった(32.0%)。記憶と集中に関する質問での「苦勞はない」回答率は、療育、精神保健手帳所持者で32~38%、身体障害者手帳所持者で50%であった。身辺処理にはいずれの手帳所持者でも50%以上の者が「苦勞はない」と回答した。

問8. 不安や気分の落ち込みの頻度(国連ワシントン・グループによる不安と憂鬱)

不安や気分の落ち込みの頻度は、精神保健手帳所持者が高かった(表13)。

問9. 不安、気分の落ち込みなどの程度

精神保健手帳所持者で不安、気分の落ち込みの程度が強い人が多かった(表14)。

表 11 日常生活活動の自立度

1. 食事	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	350	86.0	63	84.0	68	85.0	481	85.6
手伝いがあればできる	33	8.1	9	12.0	8	10.0	50	8.9
できない	13	3.2	2	2.7	1	1.3	16	2.8
経験・機会がない	0	0.0	0	0.0	1	1.3	1	0.2
合計	396	97.3	74	98.7	78	97.5	548	97.5
欠損値	11	2.7	1	1.3	2	2.5	14	2.5
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		11.6		14.9		12.8		12.2

2. 食事の支度や後片付けをする	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	255	62.7	33	44.0	47	58.8	335	59.6
手伝いがあればできる	47	11.5	22	29.3	18	22.5	87	15.5
できない	79	19.4	17	22.7	9	11.3	105	18.7
経験・機会がない	10	2.5	0	0.0	5	6.3	15	2.7
合計	391	96.1	72	96.0	79	98.8	542	96.4
欠損値	16	3.9	3	4.0	1	1.3	20	3.6
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		34.8		54.2		40.5		38.2

3. 衣服の着脱	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	335	82.3	58	77.3	69	86.3	462	82.2
手伝いがあればできる	44	10.8	10	13.3	6	7.5	60	10.7
できない	19	4.7	4	5.3	3	3.8	26	4.6
経験・機会がない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	398	97.8	72	96.0	78	97.5	548	97.5
欠損値	9	2.2	3	4.0	2	2.5	14	2.5
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		15.8		19.4		11.5		0

4. 排泄	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	351	86.2	60	80.0	75	93.8	486	86.5
手伝いがあればできる	27	6.6	7	9.3	2	2.5	36	6.4
できない	21	5.2	6	8.0	0	0.0	27	4.8
経験・機会がない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	399	98.0	73	97.3	77	96.3	549	97.7
欠損値	8	2.0	2	2.7	3	3.8	13	2.3
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		12.0		17.8		2.6		11.5

5. 入浴	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	302	74.2	54	72.0	70	87.5	426	75.8
手伝いがあればできる	44	10.8	11	14.7	6	7.5	61	10.9
できない	49	12.0	6	8.0	3	3.8	58	10.3
経験・機会がない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	395	97.1	71	94.7	79	98.8	545	97.0
欠損値	12	2.9	4	5.3	1	1.3	17	3.0
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		23.5		23.9		11.4		21.8

6. 整容	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	314	77.1	50	66.7	60	75.0	424	75.4
手伝いがあればできる	57	14.0	14	18.7	14	17.5	85	15.1
できない	23	5.7	9	12.0	4	5.0	36	6.4
経験・機会がない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	394	96.8	73	97.3	78	97.5	545	97.0
欠損値	13	3.2	3	4.0	2	2.5	18	3.2
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		20.3		31.5		23.1		22.2

7. 屋内移動	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	340	83.5	67	89.3	68	85.0	475	84.5
手伝いがあればできる	36	8.8	4	5.3	7	8.8	47	8.4
できない	22	5.4	2	2.7	2	2.5	26	4.6
経験・機会がない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	398	97.8	73	97.3	77	96.3	548	97.5
欠損値	9	2.2	2	2.7	3	3.8	14	2.5
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		14.6		8.2		11.7		13.3

8. 掃除、整理、整頓	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	272	66.8	33	44.0	41	51.3	346	61.6
手伝いがあればできる	54	13.3	21	28.0	23	28.8	98	17.4
できない	68	16.7	18	24.0	15	18.8	101	18.0
経験・機会がない	1	0.2	0	0.0	0	0.0	1	0.2
合計	395	97.1	72	96.0	79	98.8	546	97.2
欠損値	12	2.9	3	4.0	1	1.3	16	2.8
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		31.1		54.2		48.1		36.6

9. 洗濯	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	254	62.4	34	45.3	54	67.5	342	60.9
手伝いがあればできる	34	8.4	16	21.3	11	13.8	61	10.9
できない	87	21.4	15	20.0	7	8.8	109	19.4
経験・機会がない	15	3.7	5	6.7	5	6.3	25	4.4
合計	390	95.8	70	93.3	77	96.3	537	95.6
欠損値	17	4.2	5	6.7	3	3.8	25	4.4
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		34.9		51.4		29.9		36.3

10. 買い物	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	247	60.7	33	44.0	53	66.3	333	59.3
手伝いがあればできる	41	10.1	20	26.7	16	20.0	77	13.7
できない	94	23.1	18	24.0	6	7.5	118	21.0
経験・機会がない	11	2.7	1	1.3	3	3.8	15	2.7
合計	393	96.6	72	96.0	78	97.5	543	96.6
欠損値	14	3.4	3	4.0	2	2.5	19	3.4
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		37.2		54.2		32.1		38.7

11. 金銭管理	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	286	70.3	33	44.0	41	51.3	360	64.1
手伝いがあればできる	26	6.4	20	26.7	20	25.0	66	11.7
できない	77	18.9	18	24.0	13	16.3	108	19.2
経験・機会がない	7	1.7	1	1.3	4	5.0	12	2.1
合計	396	97.3	72	96.0	78	97.5	546	97.2
欠損値	11	2.7	3	4.0	2	2.5	16	2.8
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		27.8		54.2		47.4		34.1

12. 薬の管理	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	307	75.4	33	44.0	60	75.0	379	67.4
手伝いがあればできる	26	6.4	15	20.0	14	17.5	55	9.8
できない	59	14.5	21	28.0	5	6.3	103	18.3
経験・機会がない	5	1.2	3	4.0	0	0.0	10	1.8
合計	396	97.3	72	96.0	79	98.8	547	97.3
欠損値	10	2.5	3	4.0	1	1.3	15	2.7
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		22.7		54.2		24.1		30.7

13. 自分の意思を伝える	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	354	87.0	40	53.3	58	72.5	452	80.4
手伝いがあればできる	33	8.1	25	33.3	15	18.8	73	13.0
できない	10	2.5	5	6.7	4	5.0	19	3.4
経験・機会がない	1	0.2	2	2.7	0	0.0	3	0.5
合計	398	97.8	72	96.0	77	96.3	547	97.3
欠損値	9	2.2	3	4.0	3	3.8	15	2.7
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		11.1		44.4		24.7		17.4

14. 相手の意思を理解	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
一人でできる	340	83.5	35	46.7	52	65.0	432	76.9
手伝いがあればできる	35	8.6	24	32.0	18	22.5	78	13.9
できない	19	4.7	11	14.7	6	7.5	30	5.3
経験・機会がない	0	0.0	1	1.3	0	0.0	2	0.4
合計	394	96.8	71	94.7	76	95.0	542	96.4
欠損値	13	3.2	4	5.3	4	5.0	20	3.6
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
要介助者率		13.7		50.7		31.6		20.3

問 10. 障害者手帳取得の原因（複数選択）

最も回答が多かった障害者手帳取得の原因は、身体障害者手帳所持者ならびに精神保健手帳所持者では病気であった（70%以上）。療育手帳所持者では先天性（52.9%）が最も多く、その他が22.9%であった（表 15）。

問 11. 持病（複数選択）

559人が783の持病を回答し、病気の数は一人大当たり平均1.4であった。身体障害者手帳所持者の91.2%が持病ありと回答した。全体では、高血圧（40.6%）、腰痛（23.3%）、目の病気（18.8%）、糖尿病（14.3%）が多かった。精神保健手帳所持者では歯の病気（17.5%）が多かった（表 16）。

表 12 日常生活での苦勞の程度 (国連障害統計ワシントン・グループによる短い質問群 (WG-SS))

1. 眼鏡をかけても、 見ることに苦勞する	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
苦勞はない	221	54.3	54	72.0	49	61.3	324	57.7
多少苦勞する	105	25.8	8	10.7	21	26.3	134	23.8
とても苦勞する	35	8.6	2	2.7	3	3.8	40	7.1
全くできない	9	2.2	1	1.3	0	0.0	10	1.8
合計	370	90.9	65	86.7	73	91.3	508	90.4
欠損値	37	9.1	10	13.3	7	8.8	54	9.6
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0

2. 補聴器を使っても聴くことに 苦勞する	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
苦勞はない	242	59.5	54	72.0	54	67.5	350	62.3
多少苦勞する	54	13.3	4	5.3	3	3.8	61	10.9
とても苦勞する	32	7.9	3	4	1	1.3	36	6.4
全くできない	7	1.7	0	0.0	1	1.3	8	1.4
合計	335	82.3	61	81.3	59	73.8	455	81.0
欠損値	72	17.7	14	18.7	21	26.3	107	19.0
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0

3. 歩いたり、階段の上り下りに 苦勞する	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
苦勞はない	107	26.3	49	65.3	51	63.8	207	36.8
多少苦勞する	134	32.9	13	17.3	20	25	167	29.7
とても苦勞する	113	27.8	6	8.0	1	1.3	120	21.4
全くできない	34	8.4	1	1.3	2	2.5	37	6.6
合計	388	95.3	69	92.0	74	92.5	531	94.5
欠損値	19	4.7	6	8.0	6	7.5	31	5.5
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0

4. 通常言語による コミュニケーション	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
苦勞はない	262	64.4	24	32.0	42	52.5	328	58.4
多少苦勞する	87	21.4	25	33.3	27	33.8	139	24.7
とても苦勞する	29	7.1	15	20.0	8	10.0	52	9.3
全くできない	7	1.7	4	5.3	0	0.0	11	2.0
合計	385	94.6	68	90.7	77	96.3	530	94.3
欠損値	22	5.4	7	9.3	3	3.8	32	5.7
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0

5. 思い出したり集中することに 苦勞する	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
苦勞はない	207	50.9	24	32.0	31	38.8	262	46.6
多少苦勞する	129	31.7	25	33.3	31	38.8	185	32.9
とても苦勞する	37	9.1	15	20.0	13	16.3	65	11.6
全くできない	10	2.5	4	5.3	0	0.0	14	2.5
合計	383	94.1	68	90.7	75	93.8	526	93.6
欠損値	24	5.9	7	9.3	5	6.3	36	6.4
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0

6. (入浴や衣服の着脱といった) 身の回りのことに苦勞する	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
苦勞はない	219	53.8	50	66.7	54	67.5	323	57.5
多少苦勞する	101	24.8	7	9.3	18	22.5	126	22.4
とても苦勞する	48	11.8	8	10.7	1	1.3	57	10.1

全くできない	19	4.7	4	5.3	2	2.5	25	4.4
合計	387	95.1	69	92.0	75	93.8	531	94.5
欠損値	20	4.9	6	8.0	5	6.3	31	5.5
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0

表 13 不安や気分の落ち込みの頻度（国連ワシントン・グループによる不安と憂鬱）

1. 心配、不安、緊張などの頻度	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
毎日	73	17.9	20	26.7	35	43.8	128	22.8
週に1回程度	75	18.4	12	16.0	16	20.0	103	18.3
月に1回程度	50	12.3	11	14.7	13	16.3	74	13.2
年に2、3回程度	87	21.4	8	10.7	6	7.5	101	18.0
全くない	89	21.9	17	22.7	7	8.8	113	20.1
回答数計	374	91.9	68	90.7	77	96.3	519	92.3
欠損値計	33	8.1	7	9.3	3	3.8	43	7.7
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0

2. 気分が落ち込む 頻度	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
毎日	47	11.5	10	13.3	29	36.3	86	15.3
週に1回程度	75	18.4	13	17.3	16	20.0	104	18.5
月に1回程度	52	12.8	8	10.7	17	21.3	77	13.7
年に2、3回程度	83	20.4	14	18.7	8	10.0	105	18.7
全くない	112	27.5	22	29.3	8	10.0	142	25.3
回答数計	369	90.7	67	89.3	78	97.5	514	91.5
欠損値計	38	9.3	8	10.7	2	2.5	48	8.5
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0

表 14 不安、気分の落ち込みなどの程度

1. 最近、心配、不安、緊張したときの程度	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ひどく	10	2.5	5	6.7	14	17.5	29	5.2
かなり	55	13.5	9	12.0	15	18.8	79	14.1
すこし	186	45.7	28	37.3	33	41.3	247	44
わからない	30	7.4	10	13.3	2	2.5	42	7.5
回答数計	281	69.0	52	69.3	64	80	397	70.6
欠損値計	126	31.0	23	30.7	16	20	165	29.4
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0

2. 最近気分の落ちこんだ時の程度	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ひどく	10	2.5	3	4.0	16	20.0	29	5.2
かなり	42	10.3	7	9.3	12	15.0	61	10.9
すこし	177	43.5	26	34.7	34	42.5	237	42.2
わからない	40	9.8	14	18.7	5	6.3	59	10.5
回答数計	269	66.1	50	66.7	67	83.8	386	68.7
欠損値計	138	33.9	25	33.3	13	16.3	176	31.3
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0
合計	407	100.0	75	100.0	80	100.0	562	100.0

表 15 障害者手帳取得の原因（複数選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
病気	293	71.6	11	15.7	59	73.8	363	64.9
事故・けが	52	12.7	0	0.0	3	3.8	55	9.8
先天性	34	8.3	37	52.9	5	6.3	76	13.6
その他	24	5.9	16	22.9	8	10.0	48	8.6
わからない	6	1.5	6	8.6	5	6.3	17	3.0
合計	409	100.0	70	100.0	80	100.0	559	100.0

表 16 持病（複数選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
高血圧	197	48.2	8	11.4	22	27.5	227	40.6
腰痛	109	26.7	3	4.3	18	22.5	130	23.3
目の病気	88	21.5	8	11.4	9	11.3	105	18.8
糖尿病	62	15.2	4	5.7	14	17.5	80	14.3
歯の病気	36	8.8	3	4.3	14	17.5	53	9.5
高脂血症	32	7.8	3	4.3	3	3.8	38	6.8
その他	118	28.9	16	22.9	16	20.0	150	26.8
なし	36	8.8	31	44.3	18	22.5	85	15.2
回答者数	409	100.0	70	100.0	80	100.0	559	100.0
持病総数	642		45		96		783	
一人当たり持病数	1.6		0.6		1.2		1.4	

表 17 現在受けている医療ケアの数

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
受けていない	149	44.0	33	55.9	32	51.6	214	46.5
受けている	190	56.0	26	44.1	29	46.8	246	53.5
1	152	44.8	22	37.3	27	43.5	201	43.7
2	32	9.4	3	5.1	2	3.2	37	8.0
3以上	6	1.8	1	1.7	0	0.0	8	1.7
回答者数	339	100.0	59	100.0	62	100.0	460	100.0

問 12. 現在受けている医療ケア（複数選択）

(1) 受けている医療ケアの数

回答者の 53.5% がなんらかの医療ケアを受けており、複数のケアを受けている者は 9.7% であった（表 17）。

(2) 医療ケアの内容

いずれの手帳所持者においても、服薬管理を受けている者が最も多かった（20～30%）。身体障害者手帳所持者が利用している医療ケアの種類は多かった（表 18）。

問 13. 日常的なコミュニケーション手段（複数選択）

全体で最も多いコミュニケーション手段は、携帯電話 41.3%、次いで固定電話 34.3% であった。不要と回答した者は全体で 16.6% であった。療育手帳所持者、精神保健手帳所持者では、携帯電話とスマートフォン・タブレット端末の利用者がほぼ同数であった（表 19）。

問 14. 日常的な情報入手先（複数選択）

テレビが 86.6%、一般図書・新聞・雑誌

表 18 現在受けている医療ケアの内容

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
受けていない	149	44.0	33	55.9	32	51.6	214	46.5
受けている	190	56.0	26	44.1	30	48.4	246	53.5
服薬管理	90	26.5	13	22.0	20	32.3	123	26.7
透析	24	7.1	0	0.0	0	0.0	24	5.2
摘便・浣腸	16	4.7	1	1.7	3	4.8	20	4.3
酸素療法	15	4.4	0	0.0	0	0.0	15	3.3
ストーマ管理	14	4.1	0	0.0	0	0.0	14	3.0
吸引	8	2.4	2	3.4	0	0.0	10	2.2
点滴管理	5	1.5	2	3.4	0	0.0	7	1.5
経管栄養	5	1.5	0	0.0	0	0.0	5	1.1
導尿	5	1.5	2	3.4	0	0.0	7	1.5
体位変換	5	1.5	1	1.7	1	1.6	7	1.5
疼痛看護	4	1.2	1	1.7	0	0.0	5	1.1
人工呼吸器	3	0.9	0	0.0	0	0.0	3	0.7
気管切開処置	3	0.9	0	0.0	0	0.0	3	0.7
吸入	3	0.9	1	1.7	0	0.0	4	0.9
中心静脈栄養	2	0.6	0	0.0	1	1.6	3	0.7
褥瘡処置	2	0.6	0	0.0	0	0.0	2	0.4
てんかん発作処置	2	0.6	3	5.1	2	3.2	7	1.5
モニター測定	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.2
その他	41	12.1	9	15.3	8	12.9	58	12.6
回答合計	339	100.0	59	100.0	62	100.0	460	100.0

表 19 日常的なコミュニケーション手段（複数選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
携帯電話	169	44.8	22	30.6	26	34.2	217	41.3
固定電話	150	39.8	8	11.1	22	28.9	180	34.3
スマートフォン・タブレット端末	66	17.5	25	34.7	31	40.8	122	23.2
家族・友人・介助者	84	22.3	21	29.2	15	19.7	120	22.9
不要	61	16.2	12	16.7	14	18.4	87	16.6
パソコン・意思疎通支援機器	30	8.0	5	6.9	6	7.9	41	7.8
ファックス	37	9.8	0	0.0	1	1.3	38	7.2
補聴器	37	9.8	0	0.0	1	1.3	38	7.2
利用できない	6	1.6	3	4.2	1	1.3	17	3.2
筆談・要約筆記	7	1.9	1	1.4	3	3.9	11	2.1
コミュニケーションボード	2	0.5	7	9.7	1	1.3	10	1.9
読話	4	1.1	2	2.8	0	0.0	6	1.1
点字	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.2
手話・手話通訳	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.2
人工内耳	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
触手話	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
指点字	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	9	2.4	5	6.9	3	3.9	17	3.2
回答数合計	377	100.0	72	100.0	76	100.0	525	100.0
利用手段累計	664		111		124		906	
一人当たり利用手段数	1.8		1.5		1.6		1.7	

表 20 日常的な情報入手先（複数選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
テレビ	358	89.7	54	74.0	65	82.3	477	86.6
一般図書・新聞・雑誌	240	60.2	19	26.0	31	39.2	290	52.6
家族・友人・介助者	137	34.3	25	34.2	24	30.4	186	33.8
ラジオ	114	28.6	12	16.4	15	19.0	141	25.6
携帯電話	106	26.6	7	9.6	18	22.8	131	23.8
スマホ・タブレット	68	17.0	28	38.4	31	39.2	127	23.0
パソコン	49	12.3	7	9.6	14	17.7	70	12.7
ファックス	19	4.8	0	0.0	0	0.0	19	3.4
不要	11	2.8	4	5.5	3	3.8	18	3.3
手話・文字放送	4	1.0	0	0.0	0	0.0	4	0.7
できない	0	0.0	2	2.7	1	1.3	3	0.5
録音図書	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.2
点字	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.2
その他	4	1.0	3	4.1	1	1.3	8	1.5
回答者数	399	100.0	73	100.0	79	100.0	551	100.0
回答数累計	1112		161		203		1476	
1人当たり選択件数	2.8		2.2		2.6		2.7	

表 21 日中の過ごし方（未成年）（複数選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
放課後児童クラブ	0	0.0	1	9.1	0	0.0	1	7.7
保育園・幼稚園・認定こども園	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
障害児通所施設	1	100.0	11	100.0	1	100.0	13	100.0
児童発達支援施設	0	0.0	1	9.1	0	0.0	1	7.7
医療型児童発達施設	0	0.0	1	9.1	0	0.0	1	7.7
放課後デイサービス	1	100.0	10	90.9	1	100.0	12	92.3
保育所等訪問支援	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
回答選択数	1	100.0	11	100.0	1	100.0	13	100.0
未成年回答者数	2		24		2		28	

回答割合は対回答者数

52.6%、家族・友人・介助者 33.8%の順であった。不要と回答した者は 3.3%であった。一人当たり複数（2～3）の入手先を利用していた。療育手帳所持者と精神保健福祉手帳所持者では、スマホ・タブレット端末が第2位であった（表 20）。

問 15. 日中の過ごし方（複数選択）

(1) 未成年

未成年回答者 25 人中 21 人（84.0%）が療育手帳所持者で、16 人（76.2%）が通学していた。放課後児童クラブ、児童発達支援施設介護保険通所サービス、保育園・幼稚園・認定こども園、医療型児童発達支援、保育所等訪問支援を利用している身体障害者手帳所持者、精神保健手帳

所持児童はいなかった（表 21）。

(2) 成人

成人（20 歳以上）回答者 520 人では、家庭内で過ごしている人が 62.7%、就業者は 32.9%、介護・リハビリテーションサービス利用は 36.4%、その他が 12.1%であった（表 22）。

障害種別にみると、身体障害者手帳所持者と精神保健手帳所持者では家庭内で過ごしている人の割合は約 3 分の 2、療育手帳所持者では約半数であった。就業者の割合は、療育手帳所持者では約半数、身体障害者手帳所持者、精神保健手帳所持者で約 3 分の 1 であった。介護・リハビリテーションサービス利用者の割合は、療育手帳所持者では複数回答があったために 100%を

表 22 日中の過ごし方（成人）（複数選択）

成人（20歳以上）		身体		療育		精神		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
家庭内	家庭内で過ごしている	210	52.6	17	34.7	39	52.7	266	51.2
	家庭で家事、育児、介護等	47	11.8	5	10.2	8	10.8	60	11.5
	小計	257	64.4	22	44.9	47	63.5	326	62.7
就業	自営業	58	14.5	5	10.2	5	6.8	68	13.1
	正職員勤務	26	6.5	12	24.5	5	6.8	43	8.3
	正職員以外の勤務	34	8.5	9	18.4	17	23.0	60	11.5
	小計	118	29.6	26	53.1	27	36.5	171	32.9
リハビリ テーション サービス・ 介護利用	障害者通所サービス利用	22	5.5	23	46.9	13	17.6	58	11.2
	介護保険通所サービス利用	69	17.3	2	4.1	5	6.8	76	9.9
	リハビリテーション利用	40	10.0	3	6.1	1	1.4	44	8.5
	病院等のデイケア利用	27	6.8	3	6.1	2	2.7	32	6.2
	小計	158	39.6	31	63.3	21	28.4	210	40.4
その他	学校通学	1	0.3	0	0.0	1	1.4	2	0.4
	社会活動参加	9	2.3	0	0.0	1	1.4	10	1.9
	その他	36	9.0	5	10.2	10	13.5	51	9.8
	小計	46	11.5	5	10.2	12	16.2	63	12.1
回答選択数		579		84		107		770	
成人（20歳以上）回答者数		399	100.0%	49	100.0%	74	100.0%	520	100.0%

表 23 障害者向け求人へ応募経験

成人	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ある	24	6.5	16	23.5	15	19.7	55	10.7
ない	346	93.5	52	76.5	61	80.3	459	89.3
合計	370	100.0	68	100.0	76	100.0	514	100.0

表 24 今後の収入を得る仕事への就労希望

成人	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
仕事をしたい	88	24.2	40	58.8	47	60.3	175	34.3
仕事はしたくない	51	14.0	7	10.3	19	24.4	77	15.1
必要がない	153	42.0	11	16.2	9	11.5	173	33.9
その他	72	19.8	10	14.7	3	3.8	85	16.7
合計	364	100.0	68	100.0	78	100.0	510	100.0

超え、身体障害者手帳所持者、精神保健手帳所持者で約 3 分の 1 であった。

択した人は療育手帳所持者で 58.8%、精神保健福祉手帳所持者では 60.3% であった（表 24）。

問 16. 障害者向け求人へ応募経験

障害者向け求人に応募したことがある人は 10.7% であった（表 23）。

問 18. 「仕事」につくための必要条件（複数選択）

「仕事をしたい」と答えた 175 人中 166 人（94.9%）が仕事につくための必要条件を回答した。「就職に必要なこと」の条件数は平均 2.6 で、多い順に、職場の理解（63.9%）、通院機会の確保（51.2%）、柔軟な勤務体制（41.6%）、通勤手段の確保（40.4%）、支援機関の支援（27.7%）

問 17. 今後の収入を得る仕事への就労希望

就労希望は 34.3%、仕事はしたくないと回答した人は 15.1% であった。「仕事をしたい」を選

表 25 今後の収入を得る仕事への就労希望（複数選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
職場の理解	39	47.6	33	82.5	34	77.3	106	63.9
通院機会の確保	38	46.3	17	42.5	30	68.2	85	51.2
柔軟な勤務体制	27	32.9	19	47.5	23	52.3	69	41.6
通勤手段の確保	21	25.6	29	72.5	17	38.6	67	40.4
支援機関の支援	6	7.3	23	57.5	17	38.6	46	27.7
在宅勤務	21	25.6	4	10.0	6	13.6	31	18.7
職場のバリアフリー	6	7.3	4	10.0	2	4.5	12	7.2
その他	6	7.3	3	7.5	0	0.0	9	5.4
回答数合計	82	100.0	40	100.0	44	100.0	166	100.0
要望数累計	164		132		129		425	
一人当たり要望数	2.0		3.3		2.9		2.6	

表 26 余暇時間（週末などの2日以内の休日）の過ごし方（複数選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
テレビを見る、ラジオを聴く	276	80.2	45	63.4	44	57.1	365	74.2
新聞・雑誌を読む	166	48.3	16	22.5	17	22.1	199	40.4
家族団らん	119	34.6	34	47.9	23	29.9	176	35.8
のんびり	87	25.3	18	25.4	35	45.5	140	28.5
飲食、ショッピング	78	22.7	20	28.2	25	32.5	123	25.0
友人と交際	99	28.8	4	5.6	11	14.3	114	23.2
軽い運動スポーツ	75	21.8	8	11.3	14	18.2	97	19.7
趣味・娯楽	73	21.2	8	11.3	16	20.8	97	19.7
PC,IN,TV ゲーム	45	13.1	26	36.6	25	32.5	96	19.5
ドライブ	42	12.2	17	23.9	14	18.2	73	14.8
日帰りの行楽	43	12.5	8	11.3	8	10.4	59	12.0
鑑賞・見物	19	5.5	4	5.6	3	3.9	26	5.3
地域、社会活動	16	4.7	2	2.8	0	0.0	18	3.7
学習活動	4	1.2	0	0.0	2	2.6	6	1.2
遊園地・テーマパーク	1	0.3	1	1.4	0	0.0	2	0.4
その他	25	7.3	11	15.5	12	15.6	48	9.8
回答選択数累計	1168		222		249		1639	
回答者数	344	100.0	71	100.0	77	100.0	492	100.0
1人当たり活動数	3.4		3.1		3.2		3.3	

であった。療育手帳所持者では、職場の理解（82.5%）、通勤手段の確保（72.5%）、支援機関の支援（57.5%）が高く、精神保健手帳所持者では、職場の理解（77.3%）が特に高く、身体障害者手帳所持者では在宅勤務（25.6%）が高い結果であった（表 25）。

問 19. 余暇時間（週末などの2日以内の休日）の過ごし方（複数選択）

余暇についての回答者は 492 人で、選択された余暇活動数の合計は 1,639（一人平均 3.3）であっ

た。多かった余暇活動は、TV・ラジオ（74.2%）、新聞・雑誌（40.4%）、家族団らん（35.8%）、のんびりする（28.5%）、飲食・ショッピング（25.0%）、友人と交際する（23.2%）であった（表 26）。

問 20. 運動やスポーツ活動（複数回答）

運動やスポーツ活動について 511 人が回答した。何らかの運動・スポーツをしていたのは約半数で最も多かった運動種別は散歩（69.8%）であった（表 27）。

表 27 運動やスポーツ活動（複数回答）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
回答者数	365		71		75		511	
していない	192		37		40		269	
している	173	100.0	34	100.0	35	100.0	242	100.0
散歩	127	73.4	17	50.0	25	71.4	169	69.8
体操	42	24.3	6	17.6	12	34.3	60	24.8
スポーツ	41	23.7	11	32.4	9	25.7	61	25.2
回答選択数累計	210		34		46		290	
1人当たり活動数	1.2		1.0		1.3		1.2	

表 28 運動・スポーツの場（複数選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
散歩・運動・スポーツをしている回答者	132	100.0	30	100.0	28	100.0	190	100.0
屋外	80	60.6	11	36.7	14	50.0	105	55.3
家庭内	41	31.1	4	13.3	10	35.7	55	28.9
障害者センター	10	7.6	5	16.7	4	14.3	19	10.0
公共施設（センター以外）	7	5.3	2	6.7	3	10.7	12	6.3
民間施設	7	5.3	2	6.7	3	10.7	12	6.3
その他	11	8.3	12	40.0	2	7.1	25	13.2
活動の場の数合計	156		36		36		228	
一人当たりの活動場数	1.2		1.2		1.3		1.2	

問 21. 運動・スポーツの場（複数選択）

問 20 で運動やスポーツをしていると回答した 290 人（身体 210 人、療育 34 人、精神 46 人）のうち 190 人が実施場所を回答した。実施場所で最も多かったのは屋外（55.3%）、次いで家庭内（28.9%）、障害者センター（10.0%）、民間施設（6.3%）であった（表 28）。

問 22. 運動・スポーツの頻度

週 3 日以上運動・スポーツをしている回答者の割合は 43.4%、週 1 日または 2 日は 34.3% で、あわせて 77.7% であった（表 29）。

問 23. 外出の頻度

外出の頻度に関しては 533 件の回答があり、505 人（94.7%）が外出していた。23.1% の人が毎日外出し、1 週間に 3 日以上外出している人は全体で 51.1%、身体障害者手帳所持者で 47.5%、療育手帳所持者で 63.7%、精神保健手帳所持者で 57.7% であった。1 か月に 1 回未満しか外出していない人は、全体で 8.4%、身体障害者手帳所持者で 7.7%、療育手帳所持者で 11.5%、精神保

健福祉手帳所持者で 7.7% であった（表 30）。

問 24. 外出の目的（3 つまで選択）

外出の目的は、全体では多い順に買い物（64.6%）、医療機関受診（57.0%）、通勤・通学・通所（30.9%）、散歩（25.5%）であった。療育手帳所持者では、通勤・通学・通所が最も多く（71.9%）、ついで買い物（68.8%）であった（表 31）。

問 25. 「一人で外出」の可否

どこにでも一人で外出できる人は全体で 46.6% であった。精神保健手帳所持者では「慣れた場所以外は支援が必要」が 40.8%、「体調が悪い場合は支援が必要」が 14.5% であった（表 32）。

問 26. 「一人で外出できない」回答者の外出様式（複数選択）

一人で外出できない人の約 9 割は家族が付き添っていた。外出に関しての福祉サービスの利用は 25.7% であった（表 33）。

表 29 運動・スポーツの頻度

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
週3日以上	66	48.2	9	29	11	36.7	86	43.4
週1～2日	48	35	11	35.5	9	30	68	34.3
月1～3日	14	10.2	6	19.4	2	6.7	22	11.1
3ヶ月に1～2日	1	0.7	0	0.0	2	6.7	3	1.5
年に1～3日	1	0.7	2	6.5	0	0.0	3	1.5
わからない	7	5.1	3	9.7	6	20.0	16	8.1
合計	137	100.0	31	100.0	30	100.0	198	100.0

表 30 外出の頻度

		身体		療育		精神		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
外出 して いる	毎日	72	18.7	27	39.1	24	30.8	123	23.1
	1週間に3～6日	111	28.8	17	24.6	21	26.9	149	28.0
	1週間に1～2日	117	30.3	15	21.7	20	25.6	152	28.5
	2週間に1～2日	21	5.4	1	1.4	2	2.6	24	4.5
	1ヶ月に1～2日	35	9.1	1	1.4	5	6.4	41	7.7
	2～3ヶ月に一回	9	2.3	2	2.9	1	1.3	12	2.3
	5～6ヶ月に一回	2	0.5	1	1.4	1	1.3	4	0.8
	小計	367	95.1	64	92.8	74	94.9	505	94.7
外出していない	19	4.9	5	7.2	4	5.1	28	5.3	
合計	386	100.0	69	100.0	78	100.0	533	100.0	

表 31 外出の目的 (3つまで選択)

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
買い物	227	61.9	44	68.8	55	74.3	326	64.6
医療機関受診	223	60.8	20	31.3	45	60.8	288	57.0
通勤・通学・通所	78	21.3	46	71.9	32	43.2	156	30.9
散歩	106	28.9	10	15.6	13	17.6	129	25.5
友人・知人に会う	66	18.0	4	6.3	8	10.8	78	15.4
その他	55	15.0	10	15.6	6	8.1	71	14.1
趣味・スポーツ	43	11.7	2	3.1	4	5.4	49	9.7
訓練・リハ	34	9.3	1	1.6	4	5.4	39	7.7
グループ活動参加	13	3.5	4	6.3	2	2.7	19	3.8
合計	367	100.0	64	100.0	74	100.0	505	100.0

表 32 「一人で外出」の可否

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
どこでも一人で外出できる	194	71.1	21	30.9	26	34.2	241	46.6
慣れた場所以外は支援必要	59	21.6	26	38.2	31	40.8	116	22.4
体調が悪い場合は支援必要	12	4.4	1	1.5	11	14.5	24	4.6
どこにでも支援必要	95	34.8	17	25.0	6	7.9	118	22.8
その他	13	4.8	3	4.4	2	2.6	18	3.5
合計	373	136.6	68	100.0	76	100.0	517	100.0

表 33 「一人で外出できない」回答者の外出様式（複数選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
家族の付き添い	175	97.8	41	87.2	35	70.0	251	90.9
福祉サービス利用	46	25.7	17	36.2	8	16.0	71	25.7
移送サービス利用	20	11.2	2	4.3	5	10.0	27	9.8
友人、知人、ボランティア 付き添い	18	10.1	2	4.3	5	10.0	25	9.1
その他	20	11.2	4	8.5	6	12.0	30	10.9
外出に支援を必要とする	179	100.0	47	100.0	50	100.0	276	100.0

表 34 外出支援の移送サービス利用希望の頻度

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
毎日	2	0.8	5	9.4	1	1.7	8	2.2
1週間に3～6日	13	5.1	2	3.8	2	3.3	17	4.6
1週間に1～2日	19	7.5	5	9.4	4	6.7	28	7.7
2週間に1～2日	9	3.6	0	0.0	1	1.7	10	2.7
1ヶ月に1～2日	27	10.7	5	9.4	3	5.0	35	9.6
その他	15	5.9	5	9.4	2	3.3	22	6.0
利用を希望していない	117	46.2	19	35.8	37	61.7	173	47.3
わからない	51	20.2	12	22.6	10	16.7	73	19.9
合計	253	100.0	53	100.0	60	100.0	366	100.0

問 27. 外出支援の移送サービス利用希望の頻度
希望する移送サービス利用頻度は多様であった。精神保健手帳所持者では「利用を希望しない」が61.7%であった（表 34）。

問 28. 外出時に困ること、心配なこと（3つまで選択）

368 人が 533 件の困難や心配（一人平均 1.4 件）を選択した。外出時に困ることは、3 障害の合計では、多い順に、公共交通機関が少ない（22.3%）、困難な時の対応（21.0%）、お金がかかる（15.9%）、道路・駅の段差（15.6%）、列車・バスの乗降が困難（15.6%）であった。障害種別による困ることには違いがあり、身体障害者手帳所持者では列車・バスの乗降困難、道路・駅の段差が、療育手帳所持者では困難な時の対応、切符・乗り換えが、精神保健手帳所持者では、困難な時の対応、お金がかかる、周囲の目が気になる、突如の体調変化が多かった（表 35）。

問 29. 災害時に一人で避難できるか

災害時の避難に関して 546 人が回答した。「一人で避難できる」と回答したのは44.1%であった。

療育手帳所持者の約半数は「できない」と回答した（表 36）。

問 30. 災害時に、近隣に救助してくれる人がいるか

近隣に救助してくれる人は、全体では、「いる」41.2%、「いない」23.8%、「わからない」35.0%であった。精神保健手帳所持者では「いない」35.1%、療育手帳所持者は「わからない」58.6%であった（表 37）。

問 31. 災害にあったことがあるか

災害にあったことが「ある」と36.2%が回答した（表 38）。

問 32. 災害時に困ったこと（困ると思われること）（複数選択）

災害時に困ったことについて、472 人が 1,409 件を選択した（一人平均 2.8～3.7 件）。全体では、避難場所の設備や生活環境が不安（45.8%）、安全なところまで迅速に避難することができない（42.4%）、家の片付けなどができない（36%）、投葉や治療が受けられない（31.4%）の順で回答

表 35 外出時に困ること、心配なこと（3つまで選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
公共交通機関が少ない	81	21	19	27.5	19	25.7	119	22.3
列車バスの乗降困難	71	18.4	7	10.1	5	6.8	83	15.6
道路・駅の段差	71	18.4	7	10.1	5	6.8	83	15.6
切符、乗り換え	26	6.7	14	20.3	10	13.5	50	9.4
設備不備	50	13	4	5.8	2	2.7	56	10.5
介助者がいない	33	8.5	5	7.2	0	0.0	38	7.1
お金がかかる	44	11.4	10	14.5	31	41.9	85	15.9
周囲の目が気になる	19	4.9	8	11.6	18	24.3	45	8.4
突然の体調変化	40	10.4	2	2.9	16	21.6	58	10.9
困難な時の対応	54	14.0	26	37.7	32	43.2	112	21.0
その他	36	9.3	3	4.3	6	8.1	45	8.4
合計	386	100.0	69	100.0	78	100.0	533	100.0

表 36 災害時に一人で避難できるか

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
できる	189	48.1	19	26.0	33	41.3	241	44.1
できない	159	40.5	38	52.1	21	26.3	218	39.9
わからない	45	11.5	16	21.9	26	32.5	87	15.9
合計	393	100.0	73	100.0	80	100.0	546	100.0

表 37 災害時に、近隣に救助してくれる人がいるか

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
いる	173	46.4	16	22.9	25	32.5	214	41.2
いない	84	22.5	13	18.6	27	35.1	124	23.8
わからない	116	31.1	41	58.6	25	32.5	182	35
合計	373	100.0	70	100.0	77	100.0	520	100.0

表 38 災害にあったことがあるか

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ある	127	32.9	33	46.5	33	43.4	193	36.2
ない	259	67.1	38	53.5	43	56.6	340	63.8
合計	386	100.0	71	100.0	76	100.0	533	100.0

された（表 39）。

身体障害者手帳所持者では、安全なところまでの避難と、避難場所の設備や、生活環境がほぼ同数で最多であった。療育手帳所持者では家の片づけができない、救助を求めることができないがほぼ同数で最多、精神保健手帳所持者では避難場所の設備や環境が不安、と買い物などの物資の入手困難がほぼ同数で最多であった。

問 33. 差別や嫌な思いの経験

差別や嫌な思いの経験が、「ある（または少しある）」の回答は、全体で 34.6%、身体障害者手帳所持者では 26.1%、療育手帳所持者では 63.5%、精神保健手帳所持者では 50.0%であった（表 40）。

表 39 災害時に困ったこと（困ると思われること）（複数選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
避難場所の設備や生活環境が不安	161	38.1	24	26.1	31	36.5	216	36.7
安全なところまで、迅速に避難することができない	162	38.3	23	25.0	15	17.6	200	34.0
家の片付けなどができない	118	27.9	26	28.3	26	30.6	170	28.9
投薬や治療が受けられない	113	26.7	13	14.1	22	25.9	148	25.1
通常と異なる状況で、買い物など物資の入手ができない	80	18.9	22	23.9	29	34.1	131	22.2
周囲とコミュニケーションがとれない	38	9.0	27	29.3	19	22.4	84	14.3
補装具・日常生活用具・医薬品の入手ができなくなる	65	15.4	10	10.9	9	10.6	84	14.3
被害状況、避難場所などの情報が入手できない	45	10.6	21	22.8	15	17.6	81	13.8
救助を求めることができない	43	10.2	25	27.2	8	9.4	76	12.9
復旧に関する情報が入手できない	28	6.6	13	14.1	9	10.6	50	8.5
地域の災害リスクの情報が入手できない	25	5.9	11	12.0	8	9.4	44	7.5
補装具の使用が困難になる	33	7.8	4	4.4	1	1.18	38	6.5
その他	8	1.9	4	4.4	3	3.5	15	2.5
わからない	44	10.4	15	16.3	13	15.3	72	12.2
合計	423	100.0	92	100.0	85	100.0	589	100.0

表 40 差別や嫌な思いの経験

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ある	28	7.1	19	25.7	24	30.8	71	13.0
少しある	75	19.0	28	37.8	15	19.2	118	21.6
ない	292	73.9	27	36.5	39	50.0	358	65.4
合計	395	100.0	74	100.0	78	100.0	547	100.0

表 41 差別を受けた場所・場面

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
学校・仕事場	29	28.2	25	53.2	17	43.6	71	37.6
住んでいる地域	36	35.0	14	29.8	17	43.6	67	35.4
外出中	31	30.1	17	36.2	9	23.1	57	30.2
仕事を探すとき	22	21.4	5	10.6	16	41.0	43	22.8
病院など医療機関	21	20.4	10	21.3	6	15.4	37	19.6
余暇を楽しむとき	12	11.7	6	12.8	3	7.7	21	11.1
その他	6	5.8	3	6.4	1	2.6	10	5.3
総数	103	100.0	47	100.0	39	100.0	189	100.0

問 34. 差別を受けた場所・場面

問 33 で差別や嫌な思いの経験が「ある」または「少しある」と答えた 189 人が差別を受けた場所・場面 189 件を回答した。多い順に、学校・仕事場（37.6%）、居住地域（35.4%）、外出中（30.2%）であった。求職時（22.8%）、医療機関（19.6%）での差別も回答された（表 41）。

問 35. 身体障害者手帳の等級

身体障害者手帳所持者 423 人のうち 375 人が等級を回答した（表 42）。

問 36-2、38-2、39-2. 初めて障害として認定された年齢

単一障害で障害認定を受けた回答者について、10 歳間隔の年齢階層で集計すると、障害者手帳の取得時年齢は 50 歳代が最多 80 人（16.9%）、65 歳以上は 154 人（32.6%）であった。2 種類以上の障害種別で障害認定を受けている場合には、最初に認定を受けた障害種別がわからないため、この集計から割愛した（表 43）。

問 36-1. 身体障害者手帳所持者の障害種別と等級 (表 44)

問 37. 身体障害者手帳取得の原因疾患 (複数選択)
身体障害者手帳取得の原因疾患は心臓疾患が最多であった (表 45)。

問 38. 療育手帳記載の障害程度
療育手帳所持者 92 人のうち 80 人が等級を記載し、B2 (軽度) が最多であった (表 46)。

表 42 身体障害者手帳の等級

等級	人数	%
1 級	127	30.0
2 級	54	12.8
3 級	69	16.3
4 級	77	18.2
5 級	25	5.9
6 級	23	5.4
小計	375	88.7
無効回答	1	0.2
欠損値	47	11.1
合計	423	100.0

問 39. 精神保健福祉手帳の等級 (精神保健福祉手帳所持者 85 人)

精神保健福祉手帳所持者 85 人中 80 人が等級を記載し、1 級 (日常生活の用を弁ずることを不能ならしめる程度) が最多であった (48%) (表 47)。

問 40. 精神保健福祉手帳取得の原因疾患

精神保健福祉手帳取得の原因疾患は、統合失調症が 49.4%、気分障害が 28.2%、神経症性障害が 17.6%、発達障害 14.1%であった (表 48)。

問 41. 介護保険サービス利用者の障害支援区分

介護保険サービスの利用に関する回答者は 291 人 (身体障害者手帳所持者 195 人、療育手帳所持者 40 人、精神保健手帳所持者 56 人)、区分認定を受けていたのが 90 人 (30.9%)、受けていなかったのは 201 人 (69.1%) であった (表 49)。

問 42. 障害福祉サービス利用

障害福祉サービス利用しているのは、身体障害者手帳所持者 37 人 (16.0%)、療育手帳所持者 37 人 (67.3%)、精神保健手帳所持者 20 人 (32.8%) であった (表 50)。

表 43 初めて障害として認定された年齢 (人)

手帳・障害種別	年齢階層													合計
	～6	7～15	16～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～89	90～	
身体障害者手帳	21	9	6	4	27	34	78	40	34	34	35	55	6	383
視覚障害	1	1	0	0	3	2	4	0	2	3	2	6	0	24
聴覚障害	3	2	0	0	3	1	2	2	0	1	0	7	0	21
平衡機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
音声・言語・咀嚼機能障害	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	1	0	6
肢体不自由 (上肢)	5	1	2	0	5	7	13	3	4	3	5	6	1	55
肢体不自由 (下肢)	5	4	4	3	9	16	25	11	12	13	17	10	1	130
肢体不自由 (体幹)	5	1	0	0	3	1	5	2	2	2	1	0	1	23
脳原性 (上肢)	0	0	0	0	0	0	3	1	0	1	0	0	0	5
脳原性 (移動)	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
心臓機能障害	0	0	0	0	0	5	10	13	10	4	6	18	2	68
呼吸器機能障害	1	0	0	0	0	0	2	1	1	3	1	3	0	12
腎臓機能障害	0	0	0	1	3	0	5	3	0	2	0	2	1	17
膀胱・直腸機能障害	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	2	1	0	9
小腸機能障害	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0	6
HIV 免疫機能障害	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
肝臓機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
療育手帳	20	17	13	7	1	3	3	1	1	3	0	0	0	69
精神保健福祉手帳		4	2	15	15	16	5	2	2	3	0	2	0	66
合計	37	27	21	26	37	50	80	41	35	36	33	44	6	473

表 44 身体障害者手帳所持者の障害種別と等級

等級	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	7 級	合計	%
視覚障害	5	8	2	6	4	3	-	28	6.0
聴覚障害	-	5	2	4	-	13	-	24	5.2
音声・言語・そしゃく機能障害	-	-	5	4	-	-	-	9	1.9
肢体不自由（上肢）	9	23	12	14	3	3	3	67	14.5
肢体不自由（下肢）	6	23	44	46	19	11	2	151	32.6
肢体不自由（体幹）	9	6	9	-	4	-	-	28	6.0
肢体不自由（脳原性運動機能）	3	3	3	1	1	-	-	11	2.4
心臓機能障害	64	-	11	7	-	-	-	82	17.7
呼吸器機能障害	5	-	9	2	-	-	-	16	3.5
じん臓機能障害	22	-	-	-	-	-	-	22	4.8
ぼうこう・直腸機能障害	-	-	1	13	-	-	-	14	3.0
その他	3	-	3	4	1	-	-	11	2.4
有効回答数	126	68	101	101	32	30	5	463	100.0

表 45 身体障害者手帳取得の原因疾患（複数選択）

原因疾患	人数	%
心臓疾患	79	18.7
骨関節疾患	49	11.6
脳血管障害	42	9.9
眼科疾患	22	5.2
耳鼻科疾患	22	5.2
じん臓疾患	21	5.0
呼吸器疾患	12	2.8
切断	12	2.8
リウマチ性疾患	10	2.4
ぼうこう疾患	8	1.9
脳性まひ	8	1.9
脊髄損傷	8	1.9
その他	107	25.3
有効回答数	381	90.1
欠損値	42	9.9
合計	423	100.0

表 46 療育手帳記載の障害程度

障害程度	人数	%
A1	21	22.8
A2	8	8.7
B1	19	20.7
B2	32	34.8
小計	80	87.0
欠損値	12	13.0
合計	92	100.0

問 43. 利用サービス（複数選択）

問 42 で「障害福祉サービスを利用している」と答えた 102 人中 94 人が利用サービス種別を回答した。身体障害者手帳所持者 407 人では 37 件

表 47 精神保健福祉手帳の等級（精神保健福祉手帳所持者 85 人）

等級	人数	%
1 級	41	48.2
2 級	35	41.2
3 級	4	4.7
小計	80	94.1
欠損値	5	5.9
合計	85	100.0

表 48 精神保健福祉手帳取得の原因疾患

原因疾患・障害	人数	%
気分障害	24	28.2
神経症性障害	15	17.6
統合失調症	42	49.4
摂食障害	1	1.2
睡眠障害	11	12.9
アルコール・薬物依存	3	3.5
認知症	2	2.4
その他の精神疾患	5	5.9
パーキンソン病	2	2.4
てんかん	5	5.9
発達障害	12	14.1
高次脳機能障害	2	2.4
その他の神経疾患	2	2.4
その他	6	7.1
有効回答数	78	91.8
欠損値	7	8.2
合計	85	100.0

(9%)、療育手帳所持者 75 人では 37 件 (49.3%)、精神保健手帳所持者 80 人では 20 件 (25%) が回答された。利用したサービスは、全体では、短期入所 (26.6%)、居宅介護 (24.5%) が多かった。

表 49 介護保険サービス利用者の障害支援区分

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
区分 1	4	2.1	1	2.5	2	3.6	7	2.4
区分 2	11	5.6	5	12.5	7	12.5	23	7.9
区分 3	1	0.5	2	5.0	9	16.1	12	4.1
区分 4	5	2.6	2	5.0	1	1.8	8	2.7
区分 6	4	2.1	1	2.5	0	0.0	5	1.7
記載されていない	22	11.3	7	17.5	6	10.7	35	12.0
受けていない	148	75.9	22	55.0	31	55.4	201	69.1
合計	195	100.0	40	100.0	56	100.0	291	100.0

表 50 障害福祉サービス利用

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
利用している	37	16.0	37	67.3	20	32.8	94	27.1
利用していない	194	84.0	18	32.7	41	67.2	253	72.9
合計	231	100.0	55	100.0	61	100.0	347	100.0

身体障害者手帳所持者では居宅介護 (45.9%)、短期入所 (37.8%) が多く、療育手帳所持者では移動支援 (29.7%)、放課後等デイサービス (27.0%)、日中一時支援 (27.0%)、計画相談支援 (24.3%) が多かった。精神保健福祉手帳所持者では計画相談支援 (30%)、移動支援 (25.0%)、居宅介護 (20.0%) の順であった (表 51)。

問 44. 介護保険利用者の要介護度

要介護認定を受けていたのは回答者 403 人中 125 人 (31.0%) であった。身体障害者手帳所持者で 37.2%、療育手帳所持者で 10.9%、精神保健手帳所持者で 14.2% であった。介護度の認定区分のうち最多だったのは、身体障害者手帳所持者では「要介護 2」、療育手帳所持者では「要介護 1」、精神保健福祉手帳所持者では「要介護 1」と「要介護 3」であった。比率の計算では、回答者数から非該当者数を減じて分母とした (表 52)。

問 45. 介護保険サービス利用

介護保険サービスの利用者は 120 人、身体障害者手帳所持者 109 人 (回答者の 36.9%)、療育手帳所持者 5 人 (回答者 10.4%)、精神保健手帳所持者 6 人 (回答者 10.3%) であった (表 53)。

問 46. 利用している介護保険サービス (複数選択)

問 45 で「介護保険サービスを利用している」と答えた 126 人中 120 人が利用サービスの種別を回答し、290 のサービスを選択した。身体障害者手帳所持者のうち介護サービス利用は 109 人、平均一人当たり 2.5 種類のサービスを利用していた。療育手帳所持者では 5 人、精神保健手帳所持者では 6 人が利用していると回答した。介護保険サービス利用で多かったのは、通所介護 (54.2%)、福祉用具貸与 (39.2%)、訪問看護 (27.5%)、短期入所生活介護 (26.7%)、訪問リハ (21.7%) であった (表 54)。

問 47. 収入

(1) 一月の平均月収

一月の平均月収の回答者は 18 歳以上 545 人 (身体 397、療育 51、精神 74) 中 164 人 (30.0%) で、障害者手帳所持者の 29.2%、療育手帳所持者の 29.4%、精神保健手帳所持者の 46.0% の人が回答した。無収入者が 48 人 (29.3%) で最も多く、次は平均月収 12~15 万円が 18 人 (11.0%) で多かった (表 55)。

(2) 一月当たりの平均給料・工賃等 (万円)

収入があると回答した 164 人中 124 人が一月あたりの平均給料・工賃などの額を回答した。1 万円未満が 29%、9~12 万円未満は 16.9%、6~

表 51 利用サービス（複数選択）

		身体		療育		精神		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
訪問介護	居宅介護	17	45.9	2	5.4	4	20.0	23	24.5
	重度訪問介護	2	5.4	0	0.0	0	0.0	2	2.1
	同行援護	3	8.1	2	5.4	0	0.0	5	5.3
	行動援護	1	2.7	8	21.6	0	0.0	9	9.6
	重度障害者等包括支援	2	5.4	0	0.0	0	0.0	2	2.1
通所・宿泊	短期入所	14	37.8	8	21.6	3	15.0	25	26.6
	療養介護	1	2.7	0	0.0	0	0.0	1	1.1
	生活介護	0	0.0	7	18.9	3	15.0	10	10.6
訪問・通所・宿泊	障害者支援施設での夜間ケア等 （施設入所支援）	1	2.7	1	2.7	0	0.0	2	2.1
	自立生活援助	0	0.0	1	2.7	2	10.0	3	3.2
	共同生活援助（グループホーム）	2	5.4	1	2.7	6	30.0	9	9.6
就労支援	自立訓練	0	0.0	2	5.4	1	5.0	3	3.2
	就労移行支援	0	0.0	3	8.1	3	15.0	6	6.4
	就労継続支援 A 型	0	0.0	1	2.7	2	10.0	3	3.2
	就労継続支援 B 型	2	5.4	8	21.6	2	10.0	12	12.8
	就労定着支援	0	0.0	1	2.7	1	5.0	2	2.1
地域生活支援	移動支援	0	0.0	11	29.7	5	25.0	16	17.0
	地域活動支援センター	4	10.8	3	8.1	2	10.0	9	9.6
	福祉ホーム	1	2.7	0	0.0	0	0.0	1	1.1
	日中一時支援	1	2.7	10	27.0	4	20.0	15	16.0
相談支援	計画相談支援	2	5.4	9	24.3	6	30.0	17	18.1
	地域移行支援	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	地域定着支援	0	0.0	1	2.7	1	5.0	2	2.1
児童支援	障害児相談支援	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	児童発達支援	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	医療型児童発達支援	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	放課後等デイサービス	1	2.7	10	27.0	0	0.0	11	11.7
	居宅訪問型児童発達支援	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	保育所等訪問支援	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	福祉型障害児入所支援	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	医療型障害児入所施設	1	2.7	0	0.0	0	0.0	1	1.1
その他	上記に含まれないサービス	1	2.7	1	2.7	1	5.0	3	3.2
サービス利用者総数		37	100.0	37	100.0	20	100.0	94	100.0
利用サービス数		56		90		46		192	
一人当たり利用サービス数平均		1.5		2.4		2.3		2.0	

9万円未満は13.7%であった。療育手帳所持者には15万円以上の給料・工賃収入があった者はいなかった（表56）。

(3) 一月当たりの障害年金などの公的年金等（万円）

222人が公的年金額を回答した。18人（8.1%）が無年金であった。多い順に、6～9万円未満は33.3%、12～15万円未満は16.7%、9～12万円未満は12.6%であった。療育手帳所持者には15万円以上の年金収入があった者はいなかった（表57）。

問 48. 課税状況

18歳以上で課税状況を回答しなかった者は30%であった。回答者のうち、住民税非課税は66.0%、所得税非課税は66.9%、生活保護受給は3.2%であった（表58）。

問 49. 生計を同一とする家族の課税状況

問2で18歳未満と答えた23人について家族の課税状況を聞いた結果、住民税について16人、所得税について15人、生活保護について17人が回答した。住民税非課税は25%、所得税非課

表 52 介護保険利用者の要介護度

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
要支援 1	10	8.9	0	0.0	0	0.0	10	8.0
要支援 2	15	13.4	1	20.0	1	12.5	17	13.6
要介護 1	21	18.8	2	40.0	2	25.0	25	20.0
要介護 2	26	23.2	0	0.0	1	12.5	27	21.6
要介護 3	15	13.4	0	0.0	2	25.0	17	13.6
要介護 4	15	13.4	1	20.0	1	12.5	17	13.6
要介護 5	10	8.9	1	20.0	1	12.5	12	9.6
非該当	41		10		17		68	
申請していない	148		31		31		210	
合計	301		46		56		403	
要介護認定者	112	100.0	5	100.0	8	100.0	125	100.0

表 53 介護保険サービス利用

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
利用している	109	36.9	5	10.4	6	10.3	120	29.9
利用していない	186	63.1	43	89.6	52	89.7	281	70.1
合計	295	100.0	48	100.0	58	100.0	401	100.0

税は 26.7%、生活保護受給は 5.9%であった（表 59）。

問 50. 困ったことのあったときの相談相手（複数選択）

518 人の回答者中「相談したいがどこにも相談できない」が 11 人、507 人が 1,138 件の相談者を回答した（一人当たり 2.2 件）。精神保健手帳所持者の相談者は平均一件であった。

相談相手は、家族・親戚 87.5%、かかりつけの医師や看護師 43.1%、友人・知人 25.5%、福祉サービス事業所や施設の人 22.0%であった。療育手帳所持者では福祉サービス事業所や施設の人 40.0%が多く、精神保健手帳所持者ではかかりつけの医師や看護師 60.5%が多かった（表 60）。

問 51. 特に必要と感じている支援（主なもの 6 つまで選択）

特に必要と感じている支援について、延べ 589 人が 1,450 件を選択した（一人平均 2.5 件）。多い順に、経済的援助（42.8%）、医療費の軽減（28.2%）、災害時・緊急時の情報、通信、避難誘導対策の充実（18.7%）、就業支援制度の充

実（16.0%）、親亡き後の生活支援（14.8%）、在宅福祉サービスの充実（14.3%）であった（表 61）。

6. 結果のまとめ

6-1. 平成 28 年全国調査との比較

1) 回答者の年齢（問 2）

本調査の結果を、平成 28 年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）¹⁾の結果と比較すると、年齢構成は本調査における身体障害者手帳所持者は 65 歳以上が 79.9%、療育手帳所持者は 20～49 歳が 48.6%、精神保健手帳所持者は 30～59 歳が 52.6%でいずれも平成 28 年全国調査と差がなかった。

2) 日常生活活動（問 6）

基本的日常生活活動（食事、衣服の着脱、排泄、入浴、整容、屋内移動）が自立している人の割合はいずれの手帳所持者でも 3 分の 2 を超えていた。手段的日常生活活動（食事の支度・あとかたづけ、洗濯、買い物、金銭管理、服薬管理、掃除・整理・整頓）は、いずれの活動も自立者の割合は、身体障害者手帳所持者、精神保健手帳所持者に比して、療育手帳所持者で低かった。

表 54 利用している介護保険サービス（複数選択）

		身体		療育		精神		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
在宅	訪問介護（ホームヘルプサービス）	23	21.1	1	20.0	0	0.0	24	20.0
	訪問入浴介護	9	8.3	1	20.0	1	16.7	11	9.2
	訪問看護	33	30.3	0	0.0	0	0.0	33	27.5
	訪問リハ	25	22.9	1	20.0	0	0.0	26	21.7
	夜間対応型訪問介護	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	1.8	0	0.0	0	0.0	2	1.7
通所	居宅療養管理指導	2	1.8	0	0.0	0	0.0	2	1.7
	通所介護	61	56.0	0	0.0	4	66.7	65	54.2
	通所リハ	23	21.1	0	0.0	0	0.0	23	19.2
	地域密着型通所介護	1	0.9	0	0.0	0	0.0	1	0.8
施設 宿泊 入所	認知症対応型通所介護	3	2.8	0	0.0	0	0.0	3	2.5
	短期入所生活介護	32	29.4	0	0.0	0	0.0	32	26.7
	短期入所療養介護	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	介護老人福祉施設	1	0.9	0	0.0	0	0.0	1	0.8
	介護老人保健施設	3	2.8	1	20.0	0	0.0	4	3.3
	介護療養型医療施設	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	特定施設入居者生活介護	1	0.9	1	20.0	0	0.0	2	1.7
	介護医療院	2	1.8	0	0.0	0	0.0	2	1.7
	認知症対応型グループホーム	2	1.8	1	20.0	0	0.0	3	2.5
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	0.9	0	0.0	0	0.0	1	0.8
複合	地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	小規模多機能型居宅介護	1	0.9	0	0.0	0	0.0	1	0.8
福祉 用具	看護小規模多機能型居宅介護	2	1.8	0	0.0	0	0.0	2	1.7
	福祉用具貸与	45	41.3	0	0.0	2	33.3	47	39.2
	特定福祉用具販売	5	4.6	0	0.0	0	0.0	5	4.2
	サービス利用者総数	109	100.0	5	100.0	6	100.0	120	100.0
	利用サービス数	277		6		7		290	
	一人当たり利用サービス数平均	2.5		1.2		1.2		2.4	

表 55 一月の平均月収

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1万円未満	37	32.2	5	33.3	10	29.4	52	31.7
1～3万円未満	6	5.2	0	0.0	2	5.9	8	4.9
3～6万円未満	11	9.6	0	0.0	1	2.9	12	7.3
6～9万円未満	9	7.8	2	13.3	5	14.7	16	9.8
9～12万円未満	6	5.2	3	20.0	3	8.8	12	7.3
12～15万円未満	13	11.3	2	13.3	3	8.8	18	11.0
15～18万円未満	5	4.3	2	13.3	6	17.6	13	7.9
18～21万円未満	11	9.6	1	6.7	2	5.9	14	8.5
21～24万円未満	2	1.7	0	0.0	1	2.9	3	1.8
24～27万円未満	6	5.2	0	0.0	0	0.0	6	3.7
27～30万円未満	2	1.7	0	0.0	0	0.0	2	1.2
30～50万円未満	7	6.1	0	0.0	1	2.9	8	4.9
合計	115	100.0	15	100.0	34	100.0	164	100.0
18歳以上回答者	397		51		74		522	

表 56 一月当たりの平均給料・工賃等（万円）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1万円未満	19	26.4	9	36.0	8	29.6	36	29.0
1～3万円未満	1	1.4	4	16.0	1	3.7	6	4.8
3～6万円未満	3	4.2	2	8.0	1	3.7	6	4.8
6～9万円未満	10	13.9	2	8.0	5	18.5	17	13.7
9～12万円未満	7	9.7	6	24.0	8	29.6	21	16.9
12～15万円未満	4	5.6	2	8.0	1	3.7	7	5.6
15～18万円未満	2	2.8	0	0.0	2	7.4	4	3.2
18～21万円未満	11	15.3	0	0.0	1	3.7	12	9.7
21～24万円未満	2	2.8	0	0.0	0	0.0	2	1.6
24～27万円未満	8	11.1	0	0.0	0	0.0	8	6.5
27万円以上	5	6.9	0	0.0	0	0.0	5	4.0
合計	72	100.0	25	100.0	27	100.0	124	100.0

表 57 一月当たりの障害年金などの公的年金等（万円）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
0	12	8.1	3	10.7	3	6.7	18	8.1
1万円未満	1	0.7	0	0.0	0	0.0	1	0.5
1～3万円未満	0	0.0	0	0.0	1	2.2	1	0.5
3～6万円未満	27	18.1	1	3.6	3	6.7	31	14.0
6～9万円未満	37	24.8	19	67.9	18	40.0	74	33.3
9～12万円未満	19	12.8	0	0.0	9	20.0	28	12.6
12～15万円未満	25	16.8	5	17.9	7	15.6	37	16.7
15～18万円未満	8	5.4	0	0.0	2	4.4	10	4.5
18～21万円未満	9	6.0	0	0.0	2	4.4	11	5.0
21万円以上	10	6.7	0	0.0	0	0.0	10	4.5

表 58 課税状況

		身体		療育		精神		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
住民税 本人	非課税	179	63.0	25	86.2	41	73.2	245	66.0
	課税	107	37.5	4	13.8	15	26.8	126	34.0
所得税 本人	非課税	187	68.0	26	86.7	38	70.4	251	69.9
	課税	88	32.0	4	13.3	16	29.6	108	30.1
生活保護 本人	非受給	250	97.7	27	90.0	58	96.7	335	96.8
	受給	6	2.3	3	10.0	2	3.3	11	3.2

年齢構成を考慮し、身体障害者手帳所持者については、平成28年全国調査の65歳以上の結果と、療育手帳所持者ならびに精神保健手帳所持者では65歳未満の結果と日常生活活動の要介助者の割合を比較した。その結果、身体障害者手帳所持者においては、すべての調査項目において要介助者の割合は本調査と平成28年全国調査との間で10%以上の差はなかった。療育手帳所持者では、10%以上の差が認められた活動は、

「入浴」、「衣服の着脱」、「洗濯」、「意思を伝える」、「意思を理解する」の5つで、そのうち「入浴」と「衣服着脱」は本調査の要介助者の割合が低く、その他は本調査の要介助者の割合が高かった。精神保健手帳所持者では、「食事の準備」、「身の回りの掃除」、「金銭管理」、「意思を伝える」、「意思を理解する」の5項目で本調査の結果が、平成28年全国調査の結果より10%以上高かった。

3) 公的サービスの利用 (問42～46)

表 59 生計を同一とする家族の課税状況

		身体		療育		精神		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
住民税 家族	非課税	1	25.0	2	20.0	1	50.0	4	25.0
	課税	3	75.0	8	80.0	1	50.0	12	75.0
所得税 家族	非課税	2	50.0	2	20.0	0	0.0	4	26.7
	課税	2	50.0	8	80.0	1	100.0	11	73.3
生活保護 家族	非受給	2	66.7	13	100.0	1	100.0	16	94.1
	受給	1	33.3	0	0.0	0	0.0	1	5.9

表 60 困ったことのあったときの相談相手（複数選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
家族や親せき	340	91.4	56	80.0	57	75.0	453	87.5
かかりつけの医師や看護師	160	43.0	17	24.3	46	60.5	223	43.1
友人・知人	92	24.7	14	20.0	26	34.2	132	25.5
福祉サービス事業所や施設の人	66	17.7	28	40.0	20	26.3	114	22.0
病院ケースワーカーや介護保険ケアマネージャー	61	16.4	4	5.7	12	15.8	77	14.9
行政機関の相談窓口	45	12.1	6	8.6	7	9.2	58	11.2
民生委員・児童委員	31	8.3	1	1.4	1	1.3	33	6.4
障害者団体や家族会	7	1.9	3	4.3	5	6.6	15	2.9
相談支援事業所などの民間の相談窓口	2	0.5	4	5.7	7	9.2	13	2.5
通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	4	1.1	6	8.6	1	1.3	11	2.1
相談したいが、どこにも相談できない	6	1.6	3	4.3	2	2.6	11	2.1
その他	7	1.9	1	1.4	1	1.3	9	1.7
回答者数	372	100.0	70	100.0	76	100.0	518	100.0
相談者数	815		140		74		1138	
一人当たり回答件数平均	2.2		2.0		1.0		2.2	

本調査の結果は全国調査の結果に比べて、障害福祉サービスの利用率が高く、介護保険サービスの利用率が低かった。障害福祉サービスを利用していると回答したのは27.1%であった。利用サービスは多い順に、短期入所(26.6%)、居宅介護(24.5%)、計画相談支援(18.1%)、移動支援(17.0%)であった(複数選択)。

要介護認定を受けていると回答したのは31.0%、介護保険サービスを利用していると回答したのは29.9%であった。利用サービスは多い順に、通所介護(54.2%)、福祉用具貸与(39.2%)、訪問看護(27.5%)、短期入所生活介護(26.7%)、訪問リハ(21.7%)、訪問介護(20.0%)であった(複数選択)。

4) 外出頻度(問23~24)

外出頻度は、1週間に3日以上は51.1%、1か月に1~2回は7.7%、1か月に1回以下は3.1%であった。外出の目的は、多い順に買い

物64.6%、医療機関受診57%、通勤・通学・通所30.9%、散歩25.5%であった。ただし、COVID-19の流行による行動制限の影響があると推測される。

6-2. 平成28年全国調査に含まれなかった調査項目への回答結果

1) 就労意欲・希望(問16~18)

療育手帳所持者と精神保健手帳所持者の約20%が障害者雇用の求人への応募経験があった。身体障害者手帳所持者は、42%が仕事をする必要がないと回答した。これは身体障害者手帳所持者に高齢者が多いことによると考えられる。

「仕事をしたい」と答えた166名にとって、「就職に必要なこと」は、多い順に、職場の理解63.9%、通院機会の確保51.2%、柔軟な勤務体制41.6%、通勤手段の確保40.6%、支援機関の支援27.7%であった。

表 61 特に必要と感じている支援（主なもの6つまで選択）

	身体		療育		精神		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
手当・年金などの経済的援助の充実	171	40.4	34	37.0	47	55.3	252	42.8
医療費の負担軽減	122	28.8	15	16.3	29	34.1	166	28.2
災害時、緊急時の情報提供、通信体制、避難誘導対策の充実	78	18.4	16	17.4	16	18.8	110	18.7
仕事に就くこと・続けることを容易にするための制度の充実	43	10.2	27	29.3	24	28.2	94	16.0
親亡き後の生活支援	18	4.3	43	46.7	26	30.6	87	14.8
短期入所、訪問看護、日帰り介護等の在宅福祉サービスの充実	72	17.0	8	8.7	4	4.7	84	14.3
障害をもつ人の権利や人権を守るための支援	47	11.1	14	15.2	18	21.2	79	13.4
相談対応などの充実	43	10.2	8	8.7	19	22.4	70	11.9
道路、交通機関、公共建築物等の利用を容易にするための環境の充実	52	12.3	3	3.3	11	12.9	66	11.2
合理的な配慮のされた働く場ないし活動の場の確保	25	5.9	16	17.4	17	20.0	58	9.8
障害をもつ人の家族に対する支援事業	38	9.0	9	9.8	9	10.6	56	9.5
在宅医療ケア	44	10.4	5	5.4	2	2.4	51	8.7
障害をもつ人に適した住宅の確保	21	5.0	9	9.8	14	16.5	44	7.5
通所施設の整備早期訓練・療育事業の充実	23	5.4	15	16.3	4	4.7	42	7.1
地域との交流機会の拡大や障害者への理解を深めるための教育・機会の充実	18	4.3	11	12.0	10	11.8	39	6.6
入所施設の整備	25	5.9	13	14.1	1	1.2	39	6.6
障害の進行・二次障害・重複障害に対する支援	27	6.4	3	3.3	4	4.7	34	5.8
生活訓練などの充実	17	4.0	9	9.8	6	7.1	32	5.4
スポーツ、レクリエーション、文化活動等に対する援助	14	3.3	2	2.2	2	2.4	18	3.1
修学を容易にするための制度の充実	3	0.7	9	9.8	1	1.2	13	2.2
早期訓練・療育事業の充実	4	0.9	5	5.4	2	2.4	11	1.9
点字図書、録音図書、手話放送、字幕放送、ルビ、電子図書等の充実	5	1.2	0	0.0	0	0.0	5	0.8
回答者数	423	100.0	92	100.0	85	100.0	589	100.0
回答件数	910		274		266		1450	
一人当たり回答件数平均	2.2		3.0		3.1		2.5	

2) 外出時の困難（問 28）

3 障害の間で、困難事象が異なった。身体障害者手帳所持者では物理的な障壁が回答され、療育手帳所持者と精神保健福祉手帳所持者では、困難時の対応、切符・乗り換え、周囲の目が気になるが多く回答された。精神保健福祉手帳所持者では、お金がかかるも多く回答された。

3) 災害時避難（問 29～32）

災害を経験した人の割合は 36.2%、身体障害者手帳所持者、精神保健手帳所持者の約 40%が、「災害時に一人で避難できる」、「近隣に救助してくれる人がいる」と回答したが、療育手帳所持者では 20%であった。

4) 差別や嫌な思いの経験（問 33、34）

50%以上の療育手帳所持者、精神保健手帳所持者が、「ある」あるいは「少しある」と回答した。学校や仕事場、地域での経験が多かった。

5) 運動やスポーツ活動への参加（問 22）

身体活動と寿命との関連性に関する研究が進むとともに障害を持つ人の社会参加として「運動やスポーツ」の意義が認識されてきた。本調査では、約半数の人が週に 1 日以上運動やスポーツを行っていた。

6) WG-SS 項目への回答率の 3 種手帳所持者間比較（問 7）

身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神保健手帳所持者の間で、「苦勞はない」の回答を選択した者の割合を比較した。3 種手帳所持者

間で、「苦労はない」回答率に差がなかった項目は「視覚」、「聴覚」、「身の回りのこと」の3項目でいずれも「苦労はない」の回答割合は50%を超えていた。「歩行、階段の上り下り」では、身体障害者手帳所持者の「苦労はない」の回答割合が26%に対し、療育手帳所持者、精神保健手帳所持者では60%を超えていた。「言語によるコミュニケーション」は、療育手帳所持者で「苦労はない」の回答割合が32%と身体障害者手帳所持者、精神保健手帳所持者より低く、「思い出したり、集中すること」が「苦労はない」の回答割合は療育手帳所持者と精神保健手帳所持者で低かった。

7) ワシントン・グループによる不安と気分の落ち込みの頻度と程度の指標（問8、9）

精神保健手帳所持者の「不安や気分の落ち込み」が「毎日」と回答した者の割合は身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者の割合より15～20%高く、その程度が「ひどく」あるいは「かなり」と回答した者の割合も同様であった。

7. 考 察

7-1. 自治体調査の意味

本調査の結果は全国調査の結果に比べて、居住形態では持ち家が多く、障害福祉サービスの利用率が高く、介護保険サービスの利用率が低かった。全国調査と同等の調査項目を使って、自治体における障害者手帳所持者を対象とした悉皆調査を行うことは、自治体の特性を明らかにして地域障害福祉計画を作成する助けになることが期待される。

7-2. 余暇と運動

余暇と運動は、障害者手帳所持者のうちでも高齢者が多い飯山市では注目される課題である。すでに、飯山市が毎年行っている65歳以上の介護保険サービス非利用者に対する健康調査の中で、障害者手帳所持者に限らず障害のある人の余暇と運動の実態を明らかにし、特性に応じたサービスを検討することは今後の課題である。

余暇および運動活動を実現する要素の一つである外出の実現については、療育手帳所持者と精神保健福祉手帳所持者の課題（困難時の対応、

乗り換え、周囲の目が気になる）が明らかになった。

7-3. 災害時避難

我が国では数年ごとに大規模な自然災害に見舞われており、飯山市においても2019年10月12日に東日本台風による水害に襲われた。本調査では、災害を経験した人の割合は36.2%、身体障害者手帳所持者と精神保健手帳所持者の約40%が「災害時に一人で避難できる」、「近隣に救助してくれる人がいる」と回答したが、療育手帳所持者ではそれぞれ20%に留まった。

災害時避難は「必要とする支援」（問51）としても経済的支援、医療費補助に続いて13項目中第3番目に多く選択されたことから別稿で詳細に集計した³⁾。災害時避難と人権に関する設問は、次期の生活のしづらさ調査に採用することを提案したことから、全国調査の結果との比較ができるようになることが期待される。

7-4. 身体障害内の障害種別による差

本稿では、身体障害内の障害種別による差は、回答者の種別（問1-1）についてのみ集計した。その結果、障害種別によって本人回答率は33.3%～70.0%のばらつきがあった。視覚障害者、上肢障害者、療育手帳所持者では代筆、代理記入が多かった。身体障害者全体で集計すると、人数が少ない視覚障害者と聴覚障害者の実態は見逃される危険があるため、障害種別による集計を行うことにより、障害種別の差、特に、人数の少ない障害種別の特性を明らかにすることは今後の課題である。

7-5. 障害の国際指標

本調査は国際的な障害指標を使用する際の留意点も明らかにした。我が国の障害認定制度は、療育手帳を除き、医学的診断にもとづく臓器の機能障害（impairment）を基盤としている。一方、障害種別に関わらず医学的に診断されない臓器の異常による「苦労」、「不自由さ」を経験している人は少なくない。WG-SSによる国際的な障害統計と我が国の障害統計とを比較する際には、この制度の違いに留意する必要がある。

文 献

- 1) 厚生労働省社会・援護局障害福祉部. 平成 28 年生活のしづらさなどに関する調査 (全国在宅障害児・者等実態調査) 結果.
https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/seikatsu_chousa_c_h28.html (参照日 2022 年 6 月 16 日)
- 2) 障害福祉計画策定に係る実態調査及び PDCA サイクルに関するマニュアル 令和 2 年 3 月
https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/fukushi/syougai/syougaisya_plan/syougai_hukusi_keikaku_data/PDCAManual.pdf?site=sp (参照日 2022 年 6 月 16 日)
- 3) 北村弥生、岩谷力、今橋久美子、飛松好子. 「生活のしづらさなどに関する調査 (厚生労働省)」における災害に関する設問の有用性と課題. 令和 3 年度厚生労働科学行政推進調査事業費 (障害者政策総合研究事業) 分担研究報告書 (研究代表者: 飛松好子), 2022.

【Appendix】

福祉に関するアンケート調査

• お持ちの障害者手帳の種類について、あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 身体障害者手帳 2. 療育手帳 3. 精神障害者保健福祉手帳

• 調査にご協力いただける場合は、☑を入れてください。

- 「福祉に関するアンケート調査へのご協力をお願い」を読み、対象者本人が十分にその内容を理解したので、協力することに同意します。
- ご本人が20歳未満の場合は親、20歳以上で直接回答することが難しい場合には家族または介助者が十分にその内容を理解したので、協力することに同意します。

本調査の記入方法について、あてはまるものに○をしてください。

- | |
|--|
| 1. 本人が自身で記入
2. 本人の意思を家族・介助者等が「代筆」で記入
3. 家族・介助者等が本人の意向を汲み取って代理で記入 |
|--|

問1 ご本人以外の方が回答を記入された場合は、記入された方とご本人との関係について、あてはまる方に○をしてください。

- | | | |
|------|-----------|-----------|
| 1. 親 | 2. 親以外の家族 | 3. その他() |
|------|-----------|-----------|

問2 以降はご本人(調査の対象となる障害者手帳をお持ちの方)の状況についてお答えください。

問2 年齢をお答えください。 満 歳

問3 性別について、あてはまるものに○をしてください。

- | | | | |
|-------|-------|--------|-----------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 | 4. 答えたくない |
|-------|-------|--------|-----------|

問4 お住まいの種類について、あてはまるもの1つに○をしてください。

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1. 持ち家(分譲マンションを含む。) | 2. 賃貸住宅 |
| 3. 社宅(職員寮・寄宿舎等の従業員宿舎) | 4. 公営住宅 |
| 5. グループホーム等 | 6. 施設 |
| 7. その他() | |

※ 「グループホーム等」とは、障害者総合支援法に基づくグループホームや福祉ホームの他、介護保険による認知症対応型グループホームや自治体独自の事業によるものを含みます。

※ 「施設」とは障害者総合支援法に基づく入所支援施設や介護保険による特別養護老人ホームや介護老人保健施設を含みます。

問5 誰と一緒に暮らしていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

- | | | | | | |
|-------------|------|------|---------|--------|----------|
| 1. 配偶者(夫や妻) | 2. 親 | 3. 子 | 4. 兄弟姉妹 | 5. その他 | 6. 一人暮らし |
|-------------|------|------|---------|--------|----------|

問6 それぞれの日常生活のできる程度について、あてはまるもの1つに○をしてください。

	ひとり 一人で できる	手伝いがある ればできる (見守り声か けを呑む)	できない	経験・機会 がない
1. 食事をする	1	2	3	4
2. 食事の支度や後片付けをする	1	2	3	4
3. 衣服を着たり脱いだりする	1	2	3	4
4. 排せつをする	1	2	3	4
5. 入浴をする	1	2	3	4
6. 身だしなみを整える	1	2	3	4
7. 家の中を移動する	1	2	3	4
8. 身の回りの掃除、整理整頓をする	1	2	3	4
9. 洗濯をする	1	2	3	4
10. 買い物をする	1	2	3	4
11. お金の管理をする	1	2	3	4
12. 薬の管理をする	1	2	3	4
13. 自分の意思を伝える	1	2	3	4
14. 相手の意思を理解する	1	2	3	4

問7 日常生活でどのような苦勞がありますか。その苦勞の程度について、あてはまるもの1つに○をしてください。

	1. 苦勞はない	2. 多少苦勞する	3. とても苦勞する	4. 全くできない
1. 眼鏡を使用しても、見ることに苦勞しますか	1	2	3	4
2. 補聴器を使用しても、聴き取りに苦勞しますか	1	2	3	4
3. 歩行や階段の上り下りに苦勞しますか	1	2	3	4
4. 通常の言語を使ったコミュニケーション(人の話を理解したり、人に話を理解してもらうことなど)に苦勞しますか	1	2	3	4
5. 思い出したり集中したりすることに苦勞しますか	1	2	3	4

6. 身の回り(入浴や衣服の着脱など)のことをするのに苦 労しますか	1	2	3	4
---------------------------------------	---	---	---	---

問8 不安や気分の落ち込みなどの頻度について、あてはまるもの1つに○をしてください。

	1. 毎日	2. 週に1回程度	3. 月に1回程度	4. 年に2、3回程度	5. 全くない
1. 心配、緊張、不安などをどのくらい頻繁に感じますか	1	2	3	4	5
2. 気分が落ち込むことがどのくらい頻繁にありますか	1	2	3	4	5

問9 問8で1から4を選んだ場合に、あてはまるもの1つに○をしてください。

	1. ひどく	2. かなり	3. すこし	4. わからない
1. 最近感じた心配、緊張、不安などの程度はどのくらいでしたか	1	2	3	4
2. 最近気分が落ち込んだ時の程度はどのくらいでしたか	1	2	3	4

問10 障害者手帳を取得した原因について、あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 病気	2. 事故(災害)・けが	3. 先天性	4. その他	5. わからない
-------	--------------	--------	--------	----------

問11 持病がありますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 高血圧	2. 糖尿病	3. 高脂血症	4. 腰痛	5. 歯の病気
6. 目の病気	7. その他()	8. なし		

問12 現在受けている医療ケアについて、あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 点滴の管理	2. 中心静脈栄養	3. 透析	4. ストーマの処置	5. 酸素療法
6. 人工呼吸器	7. 気管切開の処置	8. 疼痛の看護	9. 経管栄養	10. モニター測定
11. じょくそうの処置	12. 導尿	13. 服薬管理	14. 吸引	15. 吸入
16. 体位変換(寝返り)	17. 摘便・浣腸	18. てんかん発作時の処置(座薬の投与等)		

19. その他() 20. 医療ケアを受けていない

問13 日常的にどのようなコミュニケーション手段を利用していますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. スマートフォン・タブレット端末 2. パソコン・意思疎通支援機器 3. 携帯電話 4. 固定電話
 5. ファックス 6. 補聴器 7. 人工内耳 8. コミュニケーションボード(絵・カード等) 9. 読点字
 10. 点字 11. 筆談・要約筆記 12. 手話・手話通訳 13. 触手話 14. 指点字
 15. 家族・友人・介助者(11～14の支援者を除く) 16. その他()
 17. 利用したいが、利用できない 18. 必要がないので利用していない

問14 日常的にどのような方法により情報を入手していますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. テレビ(一般放送) 2. ラジオ 3. 一般図書・新聞(ちらい含む)・雑誌 4. パソコン
 5. スマートフォン・タブレット端末 6. 携帯電話 7. ファックス 8. 手話放送・文字放送
 9. 録音図書(デジータ図書) 10. 点字 11. 家族・友人・介助者 12. その他()
 13. 利用したいが、利用できない 14. 必要がないので利用していない

問15 日中はどのように過ごしていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 正職員として働いている
 2. 正職員以外(アルバイト、パート、契約社員、派遣職員、日雇い等)として働いている
 3. 自営業をしている(家の仕事を手伝っている)
 4. 障害者のための通所サービスを利用している
 5. 介護保険の通所サービスを利用している
 6. 病院等のデイケアを利用している
 7. リハビリテーションを受けている
 8. 学校に通っている
 9. 放課後児童クラブ(学童保育)に通っている
 10. 保育園・幼稚園・認定こども園に通っている
 11. 障害児の通所施設に通っている
 →利用している通所サービスに○をしてください。
 (a 児童発達支援 b 医療型児童発達支援 c 放課後等デイサービス d 保育所等訪問支援)
 12. 社会活動(ボランティア等)を行っている

13. 家庭で家事、育児、介護等を行っている
 14. 家庭内で過ごしている
 15 その他
 ()

問16 障害者向け求人に応募したことがありますか、あてはまる方に○をしてください。

1. はい 2. いいえ

問17 今後収入を得る仕事をしたいと思いませんか。あてはまるもの1つに○をしてください。

1. 仕事をしたい 2. 仕事はしたくない 3. 必要がない 4. その他()

【仕事をしたいと答えた方にお聞きします。】

問18 あなたが仕事につくために必要なことはなんですか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 通勤手段の確保
 2. 職場のバリアフリー
 3. 柔軟な勤務体制
 4. 在宅勤務
 5. 職場に障害に対する理解があること
 6. 必要な時に通院できること
 7. 就労後に支援機関による支援(相談対応、支援等)
 8 その他
 ()

問19 余暇時間(週末などの2日以内の休日)には、主にどのようなことをして過ごしていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 何もしないでんびりする
 2. テレビを見たり、ラジオを聞いたりして過ごす
 3. 新聞、雑誌などを読んで過ごす
 4. 友人達との交際
 5. 軽い運動やスポーツ活動(散歩、ジョギング、水泳、テニス、スキーなど)
 6. 趣味・娯楽 (家庭菜園、釣り、マーじゃん、パチンコなど)
 7. パソコン、インターネット、テレビゲームなど
 8. 鑑賞・見物(絵画、陶器、祭り、神社、仏閣など)
 9. 学習活動(外国語教室、陶芸教室など)

- | |
|--------------------------------------|
| 10. 地域や社会のための活動(祭り、各種ボランティア活動への参加など) |
| 11. 飲食・ショッピング |
| 12. ドライブ |
| 13. 日帰りの行楽(ハイキング、温泉など) |
| 14. 遊園地・テーマパークなどで遊ぶ |
| 15. 家族とのだんらん |
| 16. その他() |
| 17. 余暇時間・休みはない |

問20 運動やスポーツをしていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

- | | | | |
|-------|-------|------------|----------------|
| 1. 散歩 | 2. 体操 | 3. スポーツ() | 4. 運動やスポーツはしない |
|-------|-------|------------|----------------|

【運動やスポーツをしている方にお聞きします。】

問21 どこで運動やスポーツをしていますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

- | | | | |
|-------------------|-----------|------------|-------------------|
| 1. 屋外 | 2. 家庭内 | 3. 障害者センター | 4. 障害者センター以外の公共施設 |
| 5. 民間施設(スポーツジムなど) | 6. その他() | | |

問22 運動やスポーツを、どのくらいの頻度で行っていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

- | | | |
|-------------|-----------|----------|
| 1. 週3日以上 | 2. 週1~2日 | 3. 月1~3日 |
| 4. 3ヶ月に1~2日 | 5. 年に1~3日 | 6. わからない |

【外出についてお聞きします。】

問23 どのくらい外出していますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 毎日 | 2. 1週間に3~6日 | 3. 1週間に1~2日 |
| 4. 2週間に1~2日 | 5. 1ヶ月に1~2日 | 6. 2~3か月に一回 |
| 7. 5~6か月に一回 | 8. 外出していない | |

問24 外出する目的は何ですか。主なもの3つに○をしてください。

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 通勤・通学・通所 | 6. 買い物に行く |
| 2. 医療機関への受診 | 7. 趣味やスポーツをする |
| 3. 友人・知人に会う | 8. 散歩に行く |

4. グループ活動に参加する 5. 訓練やリハビリに行く	9. その他()
---------------------------------	-----------

問25 一人で外出できますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

1. どこにでも一人で外出できる。
2. 慣れた場所には一人で行けるが、それ以外の場所は支援が必要
3. 体調が悪い場合は支援が必要
4. どこにでも支援が必要
5. その他

問26 一人で外出できない場合、どのように外出していますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 福祉サービスを利用している
2. 移送サービス(福祉タクシー等)を利用している
3. 家族に付き添ってもらっている
4. 友人や知人、ボランティア等に付き添ってもらっている
5. その他()

問27 外出する際の支援として、移送サービス(福祉タクシー、同行援護など)をどの程度

利用したいですか。あてはまるもの1つに○をしてください。

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| 1. 毎日 | 2. 1週間に3～6日 | 3. 1週間に1～2日 |
| 4. 2週間に1～2日 | 5. 1ヶ月に1～2日 | 6. その他 |
| 7. 利用を希望していない | 8. わからない | |

問28 外出する時に困ることや心配なことは何ですか。あてはまるもの主な3つに○をしてください。

1. 公共交通機関が少ない
2. 列車やバスの乗り降りが困難
3. 道路や駅に階段や段差が多い
4. 切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい
5. 外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)
6. 介助者が確保できない
7. 外出にお金がかかる
8. 周囲の目が気になる
9. 発作など突然の身体の変化が心配

呼吸器機能障害	1	•	3	4	•	•	•	歳
じん臓機能障害	1	•	3	4	•	•	•	歳
ぼうこう・直腸機能障害	1	•	3	4	•	•	•	歳
小腸機能障害	1	•	3	4	•	•	•	歳
ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害	1	2	3	4	•	•	•	歳
肝臓機能障害	1	2	3	4	•	•	•	歳

問37 身体障害者手帳を取得する原因となった疾患は何ですか。障害者手帳に記載され

ている疾患名に○をしてください。

1. 眼科疾患()	2. 耳鼻科疾患()	3. 脳性まひ
4. 脊髄性小児まひ	5. 脊髄損傷 I (対まひ)	6. 脊髄損傷 II (四肢まひ)
7. 切断(上肢)	8. 切断(下肢)	9. 骨関節疾患
10. リウマチ性疾患	11. 進行性筋萎縮性疾患	12. 脳血管障害
13. 脳挫傷	14. その他の脳神経疾患	15. 心臓疾患
16. 呼吸器疾患	17. じん臓疾患	18. ぼうこう疾患
19. 大腸疾患	20. 小腸疾患	21. 後天性免疫不全症候群
22. 肝臓疾患	23. その他()	

【療育手帳をお持ちの方にお聞きます。】

問38 療育手帳に記載されている障害の程度について、あてはまるもの1つに○をして

ください。また、はじめて障害として認定された年齢をお答えください。

障害の程度(等級)				認定された年齢
A1	A2	B1	B2	歳

【精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方にお聞きます。】

問39 精神障害者保健福祉手帳に記載されている等級について、あてはまるもの1つに

○をしてください。また、はじめて障害として認定された年齢をお答えください。

障害の程度(等級)			認定された年齢
1	2	3	歳

問40 精神障害者保健福祉手帳を取得する原因となった疾患・障害は何ですか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 気分障害(そう・うつ)	2. 神経症性障害 (不安障害・適応障害等)	3. 統合失調症
4. 摂食障害	5. 睡眠障害	6. アルコール・薬物依存
7. 認知症	8. その他の精神疾患	9. パーキンソン病
10. てんかん	11. 発達障害	12. 高次脳機能障害
13. その他の神経疾患	14. その他()	

【福祉サービスの利用についてお聞きします。】

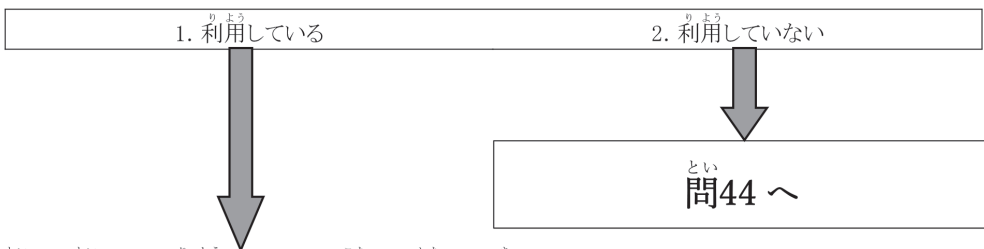
問41 障害支援区分の認定を受けていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

注) 障害福祉サービス受給者証に記載されている区分に○をしてください。

1. 区分1	2. 区分2	3. 区分3	4. 区分4
5. 区分5	6. 区分6	7. 記載されていない	8. 受けていない

問42 障害者総合支援法による福祉サービスまたは児童福祉法による障害児支援を利用

していますか。あてはまる方に○をしてください。



問43 問42で「利用している」と答えた方にお聞きします。

どのサービスを利用していますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

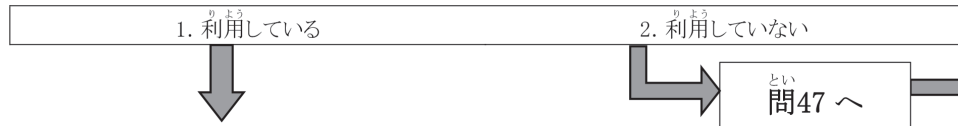
分類	介護保険サービス(介護予防を含む)
自宅に訪問	1. 居宅介護(ホームヘルプ)
	2. 重度訪問介護
	3. 同行援護
	4. 行動援護
	5. 重度障害者等包括支援
施設に通う・泊まる	6. 短期入所(ショートステイ)
	7. 療養介護

	8. 生活介護
訪問・通い・泊りの組み合わせ	9. 障害者支援施設での夜間ケア等(施設入所支援)
	10. 自立生活援助
	11. 共同生活援助(グループホーム)
働くための準備	12. 自立訓練(機能訓練・生活訓練)
	13. 就労移行支援
	14. 就労継続支援A型
	15. 就労継続支援B型
	16. 就労定着支援
地域生活支援	17. 移動支援
	18. 地域活動支援センター
	19. 福祉ホーム
	20. 日中一時支援
相談支援	21. 計画相談支援
	22. 地域移行支援
	23. 地域定着支援
児童のための支援	24. 障害児相談支援
	25. 児童発達支援
	26. 医療型児童発達支援
	27. 放課後等デイサービス
	28. 居宅訪問型児童発達支援
	29. 保育所等訪問支援
	30. 福祉型障害児入所支援
	31. 医療型障害児入所施設
その他	32. 上記に含まれないサービス

問44 介護保険の要介護認定を受けていますか。あてはまるもの1つに○をしてください。

1. 要支援1	2. 要支援2	3. 要介護1	4. 要介護2	5. 要介護3
6. 要介護4	7. 要介護5	8. 非該当	9. 申請していない	

問45 介護保険によるサービスを利用していますか。あてはまる方に○をしてください。



問46 問45で「利用している」と答えた方は、どのサービスを利用していますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

分類	介護保険サービス(介護予防を含む)
自宅に訪問	1. 訪問介護(ホームヘルプサービス) 2. 訪問入浴介護 3. 訪問看護 4. 訪問リハビリテーション 5. 夜間対応型訪問介護 6. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 7. 居宅療養管理指導
施設に通う	8. 通所介護(デイサービス) 9. 通所リハビリテーション 10. 地域密着型通所介護 11. 認知症対応型通所介護
施設に泊まる・暮らす	12. 短期入所生活介護(ショートステイ) 13. 短期入所療養介護 14. 介護老人福祉施設 15. 介護老人保健施設 16. 介護療養型医療施設 17. 特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム等) 18. 介護医療院 19. 認知症対応型共同生活介護(グループホーム) 20. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 21. 地域密着型特定施設入居者生活介護
訪問・通い・泊りの組み合わせ	22. 小規模多機能型居宅介護 23. 看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス)
福祉用具を使う	24. 福祉用具貸与 25. 特定福祉用具販売

【18歳以上の方にお聞きします。】

問47 あなた(障害者手帳所持者)の一月当たりの平均的な収入とその内訳をお答えください。

※住民税や所得税、社会保険料を差し引かれている場合は、差し引かれる前の金額を

回答ください。収入がない場合は「0」とご回答ください。

ひとつきあ 一月当たりの収入		やく 約	まんえん 万円
内 訳	きゅうりょう こうちんとう 給料・工賃等	やく 約	まんえん 万円
	しうがいねんきん こうてまねんきんとう 障害年金などの公的年金等	やく 約	まんえん 万円
	こうてき てあて 公的な手当	やく 約	まんえん 万円
	かぞく しんせきから しおくり 家族や親戚からの仕送り	やく 約	まんえん 万円
	た 其他	やく 約	まんえん 万円

問48 あなた(障害者手帳所持者)について、下記のあてはまる方に○をしてください。

じゆうみんぜい 住民税	かぜい 課税されていない	・	かぜい 課税されている
しよとくぜい 所得税	かぜい 課税されていない	・	かぜい 課税されている
せいかつほご 生活保護	じゆきゆう 受給していない	・	じゆきゆう 受給している

【18歳未満の方にお聞きします。】

問49 あなた(障害者手帳所持者)を含む生計を同一とすご家族について、下記のあて

はまる方に○をしてください。

じゆうみんぜい 住民税	かぜい 課税されていない	・	かぜい 課税されている
しよとくぜい 所得税	かぜい 課税されていない	・	かぜい 課税されている
せいかつほご 生活保護	じゆきゆう 受給していない	・	じゆきゆう 受給している

【すべての方にお聞きします。】

問50 困ったことがあったとき、だれに相談しますか。あてはまるものすべてに○をしてください。

1. 家族や親せき
2. 友人・知人(近所の人や職場の同僚等を含む)
3. 福祉サービス事業所や施設の人
4. 障害者団体や家族会
5. かかりつけの医師や看護師
6. 病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー
7. 民生委員・児童委員
8. 通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生
9. 相談支援事業所などの民間の相談窓口
10. 行政機関の相談窓口
11. その他()
12. 相談したいが、どこ(誰)にも相談できない。(相談先がわからない)

問51 現在、特に必要と感じている支援はどのようなことですか。該当する主なものを6つまで○をしてください。

1. 在宅医療ケア
2. 障害をもつ人に適した住宅の確保
3. 短期入所(ショートステイ)、訪問看護(ホームヘルプサービス)、日帰り介護(デイサービス)等の在宅福祉サービスの充実
4. 通所施設の整備
5. 早期訓練・療育事業の充実
6. 障害をもつ人の家族に対する支援事業(レスパイト、教育、相談など)
7. 生活訓練などの充実
8. 相談対応などの充実
9. 地域の人々との交流機会の拡大や障害者への理解を深めるための教育・機会の充実
10. 親亡き後の生活支援
11. 入所施設の整備
12. 障害をもつ人の権利や人権を守るための支援
13. 障害の進行・二次障害・重複障害に対する支援
14. 災害時、緊急時の情報提供、通信体制、避難誘導対策の充実
15. 修学を容易にするための制度の充実
16. 仕事に就くこと・続けることを容易にするための制度の充実
17. 合理的な配慮のされた働く場ないし活動の場の確保
18. 手当・年金などの経済的援助の充実
19. 医療費の負担軽減

- 20. 道路、交通機関、公共建築物等の利用を容易にするための環境の充実
- 21. 点字図書、録音図書、手話放送、字幕放送、ルビ、電子図書等の充実
- 22. スポーツ、レクリエーション、文化活動等に対する援助
- 23. その他

問52 必要な支援について、あなたのご意見、ご要望などがありましたら、具体的にお書きください。

問53 従来の支援に加えて、どのような支援をおのぞみますか。

問54 この調査の方法や内容についての改善について、ご意見、ご要望などがありましたら、お書きください。(例えば、調査票の読みやすさ、分量、表現、通訳がないと答えられない、結果がどう反映されているのかわからない等)

ご協力ありがとうございました。